

No. 23

ニチメン東京社友会

E-mail menkwa@sojitz.com

【目 次】

1. 2018年新年賀詞交歓会 開催のお知らせ	3
2. 社友会Home Page 更新のお知らせ	広報チーム・入江 隆史 4
3. 2017年度 総会・懇親会 報告	
① 挨拶	会長 石原 啓資 5
② 来賓ご挨拶	双日㈱代表取締役社長 藤本 昌義 6
③ 総会・懇親会報告	編集部 8
———付録：出席者名簿	
④ 2016年度事業報告および収支報告、ならびに2017年度事業計画および収支予算	世話人 梶山 俊次 13
4. 会員動向および その他報告事項	世話人 梶山 俊次
① 新規加入者	15
② 年会費入金状況とお願い	15
③ 2018（平成30）年 長寿者表彰者	17
5. OB会、同期会、同好会ニュース	
① 第30回ニチメン如月会	浅利 真司 18
② ニチメン・マンドリンクラブ紹介	入江 隆史 20
③ 「誇れる同期生、輝く第2の人生」	園山 春一 23
④ 故島崎・高野御両所を偲ぶ会開催	竹内 可能 25
⑤ 一木会開催報告・次回開催予定	奥村 睦夫 26
⑥ ニチメン合同ネシア会開催のご案内	奥村 睦夫 27
⑦ 俳句の会「いろは句会」	宇治田 薫 30
⑧ ニチメン笠間会 “第300回記念大会を終えて”	石原 靖造 31
⑨ 第12回ニチメン機友会開催の御報告	山岸 正雄 34
6. 会員寄稿文	
① ミステリ小説断想（6）	福富 直明 38
② 「スターウォーズ英和辞典」誕生	芳賀 信明 40
③ 「一帯一路」から見たアジア・ユーラシアの未来戦略	中川 十郎 42
④ わが大伯父との邂逅、幕末明治期の箕作家三代記	箕作 武彦 47
7. 追悼文	
① 杉本佳久さんの思い出	米田 信一 53
8. 社友会役員・世話人一覧表ならびに連絡先	55
9. 編集後記	倉持 次雄 56

飯野ビル全景



ビル正面入口から受付フロアまでの
直通エスカレーター



双日(株) オフィス 周辺の案内図

〒100-8691 千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング



地下鉄アクセス メトロ千代田線・丸の内線・日比谷線「霞ヶ関」下車、出口C4
メトロ銀座線「虎ノ門」下車、出口9

*** 2018年新年賀詞交歓会のお知らせ ***

恒例の賀詞交歓会を下記要領で開催致します。皆さま、奮ってご参加下さい。

開催日：2018年**1月18日**(木) 開会**11:30AM**

ご注意！ 開会は 11:30AM です（12:00 Noonではありません）。

なお、会場は 11:00AM から開けておきます。

会 場： **双日株式会社本社・21階 大会議室**

東京都千代田区内幸町2-1-1（飯野ビル内）

アクセス（メトロ）：

*千代田線・丸の内線・日比谷線「霞ヶ関」**出口C 4方面**へ進み、
通路天井の案内板に従って、館内エスカレーターで**3階オフィスロビー**迄。

*銀座線「虎ノ門」下車、**出口9**。飯野ビル迄徒歩5分程度。

会 費： **無 料**（飲物、軽食を用意致します。）

特記事項

AAA 同封のハガキで **出欠** をご返事下さい。締切**12月15日（金）必着**。

BBB このビルはセキュリティ確保のため、**入館カード** が必要です。

3階ロビーの双日受付付近で待機している社友会担当世話人に氏名を告げて、このカードを受け取った上、ゲートを入れて下さい。

ゲート出入りの要領は、SUICAやPASMOの使い方と全く同じです。

また、このカードは退館の時も必要です。それまでは必ず手元に保管下さい。

* その他、お問い合わせは、「世話人一覧表」記載の世話人か、または、社友会事務局にお寄せ下さい。FAXは03-6858-7216、Eメールはmenkwa@sojitz.comです。

社友会のホームページ更新のお知らせ

広報チームより

会員の皆様、この度ニチメン東京社友会のホームページの中身を最新の情報に更新致しましたので、お知らせ致します。

このホームページを見て頂きます手順をお知らせ致します。

1. 「ヤフー」もしくは「グーグル」の画面を開き
2. そこに「ニチメン東京社友会」と入れて検索のボタンを押します。
3. 後は、最初の画面に出ています「トピックス」「会員の動静」「OB会」「同好会」「会員寄稿文」等をクリックすれば、様々な情報を見る事ができますので、是非ご覧下さい。

掲載されています内容を約半年ごとに、新しい内容に更新してまいりますので、皆様のご興味のある情報をご覧頂ければと思います。

今回、我々広報チームが最も力を入れているのが、「ふれあいの広場」の活用です。会員同士の皆様が様々な情報をお互いに伝え合って、交流して頂きたいと考えています。そうした願いを込めて「ふれあいの広場」と名付けました。たとえば：

- ・ 2月〇日に、ある場所にハイキングに行く予定なので、もし参加を希望する方は、x x 駅の改札に何時に集合して下さい。持ち物は〇×を用意して。
- ・ こんな催し物の計画がありますので、参加しませんか？
- ・ 美しい紅葉や花の写真や美味しい食べ物の情報を載せて、お互いに楽しい情報を教え合う。
- ・ こんな場所でこんなお店をやっていますので、お時間があればお立ちより下さい。等など

もし、投稿をご希望される場合は下記にメールで情報の投稿をお願いします。

なお、これ迄ホームページに掲載頂いていましたOB会及び同好会で、再度掲載をご希望されます場合は新しい原稿を、下記連絡先までお知らせ頂きたく宜敷くお願い致します。

連絡先：menkwa@sojitz.com までお知らせ下さい。

ホームページの活用を通じて、沢山の楽しい情報で会員の皆様同士が楽しく交流して頂ける事を願っています。

以上



2017年度総会・懇親会における 会長挨拶

会 長 石 原 啓 資



只今ご紹介いただきました会長の石原でございます。

本日夏日という予報の中、かくも多数の方にご出席賜り、誠にありがとうございます。

また、本年1月の新年会以来、皆さん方とお会いするのは6ヶ月ぶりでございますが、皆様方のお元気なお姿に接しまして、この上ない喜びを感じております。

本日は双日株式会社様から、先月の20日の株主総会で新社長に昇任されました藤本社長様のご出席を賜っております。お忙しい中、有難うございます。

藤本新社長様のご経歴ご方針等につきましては、新聞、株主通信等々によって、皆様方、充分ご理解されていると思っております。

聞くところによりますと、本年度2018年3月期には純利益500億という目標に向かって新社長様を筆頭に役職員皆様方が一丸となって頑張っておられる、と聞いております。

我々社友会と致しまして、この目標達成にご協力をすると共に、是非とも達成されますよう心からお祈り申し上げます。

さて、我がニチメン東京社友会も、先ほどの総会が12回目ということで、12年目に入りました。歴史を1年1年重ねて10年を超えました。これもひとえに皆様方のご協力のお蔭だと思っております。どうも有難うございます。

先般、新しい会員名簿を作成するに当たって、会員数の確認を致しました。

今年の6月現在516名という会員数で、何とか500名を維持しているという状況でございます。

また、先ほどもご紹介ありましたが、来年1月の新年会では、2名の白寿、14名の米寿、と合計16名の長寿のお祝いをさせていただく予定でございます。

この長寿のお祝いを受けた方々は、これ以降の年会費は免除ということになりますので、ここで改めて、そういう会則のあることをお伝えしておきます。

また、この社友会につきましては、我々の運営は年2回の会報発行、1月の新年会、7月の総会及び懇親会、という運営をさせていただいております。

先般発行させて頂きました22回目の会報につきまして、昭和52年入社の皆さん方、私よりも若い後輩たちのOB・OGが、入社40周年記念同期会というのを行なった、ということを寄稿して下さいました。若いOB・OGの方々から社友会に興味を持って頂いてることは、非常に有難く、私も嬉しく思っている次第でございます。

また、22回の会報の編集後記に書かせて頂きましたが、一人でも多く、新しい会員の皆さま

私が社長になったということで何が変わるかと、色々訊かれるのですが、多分私の使命とは、自分が携わってきた「中期経営計画2017」という中計の達成が先ず私に与えられた使命だと考えております。この中計の中での最終年度、これは今年度のことですが、600億円以上の純利益、ROA 2%以上、ROEで8%以上、という経営目標を掲げております。5月に発表した昨年度の決算は、当期純利益408億円となっております。これを持ちまして、ROAでは1.9%、ROEでは7.6%となり、ROAとROEの目標は、ほぼ達成目前に迫っております。

今年度に公表した予算では、当期純利益500億円という数字を掲げております。これは中計の最終年度に掲げた600億円という数字には若干足りません。ただ、この中計を作る時から我々が掲げておりました500億円を安定的に稼げる会社になりたい、という思いを込めて中計を作ってきた訳でございます。今年この500億円という数字を必ずや達成し、そういうマーケットに対して約束したことを守るというところで市場の信頼を得て行きたい。現在の株価も290円、280円あたりで、中々300円を超えてゆきませんが、市場の信頼を得ることで株価を上げてゆきたいと考えております。

私が社長になり今考えているところは、双日もようやく成長の軌道に入ってきた、収益の拡大も好循環のサイクルに入りつつあると考えており、まだまだ成長出来る会社だと思っております。2012年3月期以降、ずっと右肩上がりで収益を挙げて来ております。私が社長の間も、この右肩上がりというところを継続してゆきたいと思っています。

ある新聞紙上に、これは私が言ったのですが、5年後には1,000億円という数字を言いました。正直言って1,000億円という数字は5年後になるのか、8年後になるのかわかりませんが、夢の数字ではないと思っております。今の双日の軌道・過程を考えますと、そう遠くない時期に1,000億円を達成出来るものと考えております。

一つ懸念があるとすれば、収益の拡大に伴い、最近は人手不足ということが色々な部署から聞こえて来ていることです。現在、双日単体で2,400人の社員がおりますが、他の総合商社、丸紅さんや伊藤忠さんに比べましたら、半分くらいの人数だということです。やはり社員の数を増やし、また社員の質を高めてゆかなくてはいけないと思っています。今年の4月には107人の新入社員が入りました。この6月に採用面接を行い、来年は120名程度の方が来てくれるだろうと思っています。現在、総合職で100名、一般職で20名の内定を出しております。ただ、このペースで社員を採用していても、3,000人を超すのは2030年という状況ですので、出来ればもう少し採用人数を増やした方がいいのかと考えております。

最後になりましたが、私が社長になり、つくづく感じているのは、今の双日の基盤ということです。皆様方が残して下さったビジネスの基盤・人脈、そういったものが本当に現在の双日を支える基盤になっている、ということをヒシヒシと感じております。そういったものを次の世代にしっかりと引き継いで行きながら、双日をもっと成長する会社にする、というところの筆頭に立って、今後とも努力してゆきたいと思っております。

簡単な御挨拶でございますが、これを持ちまして私の御挨拶とさせていただきます。
どうも有難うございました。

第12回 ニチメン東京社友会「総会・懇親会」開催報告

編 集 部

7月13日（木）双日(株)本社21階大会議室において開催。

都議選の興奮が残る中、曇り空、蒸し暑さにもかかわらず、ニチメンの名に導かれたように今回も多数の会員諸氏にご出席いただきました。

出席者総数150名（別掲載出席者一覧表）。

11時、受付開始から開会まで会場内彼方此方にてお互いの無事を確認する話の輪が多数できた。11時30分総合司会奥村世話人の開会宣言で始まり、総会議長に倉又則夫副会長兼世話人代表を選出。

総 会：

- | | | |
|----------------------------------|-----|-------|
| ① 物故者への黙祷…………… | 議 長 | 倉又 則夫 |
| ② 2016年度事業報告・決算報告（配布資料通り説明）…………… | 世話人 | 榊山 俊次 |
| ③ ②に関わる監査報告…………… | 監 事 | 新藤 孝 |
| ④ 2017年度事業計画案・予算案（配布資料通り説明）…………… | 世話人 | 榊山 俊次 |

以上、②③④、一括承認の議長要請に応じて満場一致で承認されました。

会長あいさつ： 石原 啓資（当会会長）

来賓ごあいさつ： 藤本 昌義 様（双日(株)代表取締役社長）

懇 親 会：

12時、総合司会の発声により開会、小堀裕子さんの司会により始まった。

- ・大先輩の水庫博夫様の力強い“乾杯”のご発声により、静かだった会場は一気に賑やかになった。
- ・山海の美味を目指す方々、話し相手を探す方々など、アルコールも入りあちらこちらの人の輪からは、皆さん耳が遠くなったのか？大きな話声と笑い声が聞こえ、お互いの再会を愉しみ和んでおられた。
- ・13時半、「中締め」で、皆さん次回での再会を約して御開きとなりました。



[illegible]

2017年総会懇親会 乾杯挨拶

水 庫 博 夫



乾杯の挨拶は短い方がよろしいようですから、簡単に致します。

先ずは、双日株式会社 佐藤会長、藤本社長、ご就任 誠に
 ありがとうございます。

新しい体制のもとで、双日株式会社が益々発展・飛躍することを期待しております。

一方、今年の新春の賀詞会に、実は私は出なかったのですが、その時当時の佐藤社長のお話の中で、プラント部隊が非常に大きな成果を挙げておられる、というご紹介があったということ、最近の会報で知ることが出来ました。

私は以前、以前と申しまして数十年前のことですが、プラント本部にいたことがありまして、そういう意味では、プラント部隊の活躍は心強い、喜ばしいことだと思っております。

話が長くなるのはいけませんから、乾杯でございます。

ご出席の皆さま方、全ての方のご健闘・ご健勝を祈念して、乾杯を致したいと思います。

ご唱和お願い致します。

カンパーイ！！

有難うございました。



2017年総会・懇親会風景





2017年総会・懇親会風景



◎2017年 総会 出席者リスト

2017.07.13 開催

(50音順、敬称略)

(一般会員)		(会員) 支援者	
ア	彦治子雄浩通子造枝江雄一昭長利三之子勇治雄男彦治子彦博郎勲己彦二明幸子伸穰司一弘朗	垣田佐代子 滑川和子	
	浅井正豊信武俊由紀靖利伸安裕英克隆弘静禎栗岩隆良聖正正順治正寿厚弘靖厚良潤三		
	浅東荒池池石石五十市伊今岩宇津大大太大大岡沖河笠数金鐔川川川木金小近三五坂桜笹佐		
	井子木永本黒原畑川藤村田木北崎田塚西場平島田西原森田木西畑本寺城林藤枝女井井原藤		
	三分一水石浦藤山我木瀬橋内田尻所中中治田根川谷原島部田本爪沼本岡本尾富家真田間湯		
タ	克武哲俊忠宏恒允一可尚眞忠孝謙賢一政十宣正憲一弘男覚郎之人一雄也孝明章彦代務雄生夫		
	美人也之昭晃司久宏枝能憲啓彦謙平二郎行郎英紀一郎弘男覚郎之人一雄也孝明章彦代務雄生夫		
	松松松松丸水水箕宮宮村望森森山山山吉吉渡		
ヤ			
ワ			
	尾田野村野庫野作浦本上月江邑本本川本辺		
	憲邦信博英武正泰昌壽健陽昌幸邦重		
	一夫弘男純夫幸彦博博生徳朗児一裕江浩晴幸		
	(社友会役員・世話人)		
	石倉長赤大入奥木北倉栗新園中西花蛭梶		
	原又川城山江村津川持田藤山田村澤田山		
	啓則枝弘隆睦奈緒幸次久春龍照和恒俊		
	資夫洋美雄史夫子雄雄彌孝一彦男郎美次		
	(非会員) 双日支援者		
	大村野		
	熊松村		
	恭慶恵		
	子子子		
	(双日関係ご来賓)		
	佐藤洋二大義夫史茂也勤亮裕悟淳文志崇裕彦修幸理弥		
	原本木村原田中引田濱川原井田本田浦林井木		
	藤茂松西此田櫛山高平小笠花森船倉松小藤青		
	眞貴正幸聡正友聡		
	(非会員) 双日支援者		
	大村野		
	熊松村		
	恭慶恵		
	子子子		

①一般会員 103名
 ②世話人等 23名
 合計 126名
 ③双日ご来賓等 24名

出席者数 合計
 150名

2016年度事業報告 及び 収支報告

(期間：2016年7月1日～2017年6月30日)

ニチメン東京社友会

I. 事業報告

	実績	千円 予算
第11回 総会・懇親会開催 (2016年7月15日) 144名 参加	581	700
会報・名簿の発行 会報21号 2016年12月1日発行 同22号 2017年6月15日発行	836	800
ホームページの運用	229	350
第10回 新年会開催 (2017年1月19日) 148名参加	710	700
慶弔行事	473	500

II. 収支報告

A) 収入の部

1. 会 費	1,408	1,400
2. 双日助成金	2,500	2,500
3. 寄 付	72	0
4. そ の 他	0	0
合 計	3,980	3,900

B) 支出の部

1. 総 会 開 催	581	700
2. 新 年 会 開 催	710	700
3. 会報・会員名簿の作成	836	800
4. ホームページの運用	229	350
5. 会 員 慶 弔	473	500
6. 世話人会の運営経費	332	500
7. 事務所運営経費	780	850
8. 予 備 費 + 雑 費	0	100
合 計	3,941	4,500

C) 繰越金及び預り金の部

当期収支残高	39	-600
前期繰越金	2,391	2,391
当期末繰越金残高	2,430	1,791

(預り金)

次年度以降年会費等	1,243
双日次年度助成金	625
預り金残高	1,868
合 計	4,298

2017年度事業計画 及び 収支予算

(期間： 2017年7月1日～2018年6月30日)

ニチメン東京社友会

I. 事業計画

	実績	千円 予算
第12回 総会・懇親会開催 (2017年7月13日)	700	581
会報・名簿の発行 (今年度は、年2回の会報及び会員名簿を発行いたします)	1,200	836
ホームページの運用	350	229
第11回 新年会開催 (2018年1月 予定)	700	710
慶弔行事	800	473

II. 収支予算

A) 収入の部

1. 会 費	1,400	1,408
2. 双日助成金	2,500	2,500
3. 寄 付	0	72
4. そ の 他	0	0
合 計	3,900	3,980

B) 支出の部

1. 総 会 開 催	700	581
2. 新 年 会 開 催	700	710
3. 会報・会員名簿の作成	1,200	836
4. ホームページの運用	350	229
5. 会 員 慶 弔	800	473
6. 世話人会の運営経費	400	332
7. 事務所運営経費	850	780
8. 予 備 費 + 雑 費	100	0
合 計	5,100	3,941

C) 繰越金及び預り金の部

当期収支残高	-1,200	39
前期繰越金	2,430	2,391
当期末繰越金残高	1,230	2,430
次年度以降年会費等	0	1,243
双日次年度助成金	0	625
預 り 金 残 高	0	1,868
合 計	1,230	4,298

新規加入者

No.	氏 名
1	田 中 謙
2	秀 真 正 彦
3	平 井 清 文
4	松 村 信 男
5	長谷川 尚
6	堀 部 暁

会 員 名 簿 訂 正

No.	氏 名	郵便番号	住所	電話番号
会員名簿を発行いたします。会員名簿を参照願います。				

＊ ＊ なお、名簿に訂正が必要な場合は、都度 事務局まで連絡願います。

小川博章、谷祥四郎、田中稔夫

今村裕一、上田吉彦、金井湧二、佐治眞二、手計讓治、橋本春彦、橋本良一、浜地道雄、
星加恭、蔭田保見、丸田秀、吉田敬三、吉羽伊津夫、脇邦晴

(連絡先をご存知の方は、事務局までお知らせ願います。)

石川勝美、小橋雅寛、吉弘ちよ

本会の会則に同意して、会費を納入頂けるなら会員になれます。

Noo

◎ 2017年度(2017年7月～2018年6月)年会費(3千円)入金状況とお願い

会員数	入金済会員	長寿会員(註1,2)	終身会員	未納会員
499	371	41	3	84

12

(註3)

お願い：

2017年度会費を未納付の方は当年度中の納付に ご協力下さい。

2016年度分未納者は大至急2017年度分と合わせて納付頂くようお願い致します。

当会会則第11条の規定により2期分の会費未納者は会員資格喪失となります。

振込先は、下記いずれかを利用して下さい。(振込手数料は各自ご負担願います。)

1) 郵貯銀行

口座番号：00100 - 4 - 318041

口座名義：ニチメン東京社友会

(ゆうちょ銀行に口座のある方は、口座間送金を利用すると手数料は無料です。)

2) 三菱東京UFJ銀行 東京営業部

普通口座

口座番号：8225155

口座名義：ニチメン東京社友会 代表 倉又則夫

振込に際しましては、振込者名欄に ご自身の名前を最初に 左詰めで 記載願います。
(ネンカイヒ、ニチメン、XXネンドカイヒ 等の記載があると振込者名が通帳に記載されず、振込者が特定できません。)

(注1) 長寿会員は年会費免除になっておりますが、長寿会員からご送金を頂いた場合は当会へのご寄付とみなし処理させていただきます。(会運営上大変助かります)

但し、何らかの手違い等であれば事務所までご連絡下さい。

(注2) 長寿者氏名：(50音順 敬称略)：

石川勝美、石澤謙一、市川元久、伊藤安雄、井本公一、岩居宏一、浦谷弘三、大塚静子、大野久生、大村譲、河西郁夫、上条達雄、亀田昭、木内純一、北村俊夫、古藤彰三、近藤貞一、斉藤弥、三分一克美、新野敬一、高間宏治、伊達邦雄、中村昌義、南部晴雄、平岡昭三、廣瀬一彦、藤野泰三、古川熙、松尾憲一、松本忠夫、松本靖史、松本寿夫、丸山泰三、三嶋敏夫、宮浦博、三宅葉、宮田信雄、望月昌徳、吉田孝生 以上 41名

(注3) 2018年度(2018. 7~2019. 6) 年会費納入済会員(50音順敬称略)：

<<来年度は、振込不要になります。再来年に、19年度分の振込をお願いいたします。>>
青木浩、赤澤宏哉、赤間智明、浅井正彦、東信子、荒木武雄、幾島清、池田照幸、石原啓資、泉伸夫、井上正博、入野英次、宇津木長、大西勇、大野悦良、大山陽子、岡田茂、小野宗一、尾羽沢正敏、勝田泰司、加藤資一、川崎恵美子、北川幸雄、喜多嶋雄徳、窪田厚三、倉又則夫、黒川智水、小林正史、小林靖幸、小林繁範、坂井良司、桜井征夫、佐藤統次、柴田実、須藤忠昭、陶山晃、高尾勝、高田秀子、高橋正尚、田尻眞啓、田中弘、田村達也、津田賢一郎、土田成穂、土井安之、土橋勇、富田仁、豊木啓喜、永井清光、中尾舜一、永田堅志郎、中谷勝、中原正紀、中村静人、南部捷郎、西川周、西田昇、西村昭男、西村照男、庭野松三、野城恒男、野本定男、羽中田鐵也、樋口龍彦、平井出良彦、廣本昌也、深尾孝、古家章、細谷和夫、堀江亘、本田務、松坂茂、松田實、松村森男、松本宰子、丸野純、宮尾迪子、村上匡一、村上泰生、茂木良夫、本松巖、矢島孝、安井修司、八津道夫、柳沢明、山岸正雄、山口一光、吉内健次、吉水稔、若月義和 以上 90名

(注4) 2017年6月以降で 寄付をいただいた方々

廣内卓生、宮浦博、三分一克美、斉藤弥

2018年 新年会にて 長寿者お祝い対象者(敬称略)

白寿 (1920年生まれ) 1名

望月 昌德

米寿 (1931 年生まれ) 14 名

青木 繁行、石井 幹雄、内田 英三、海野 敏夫、大西 勇、大森 啓作、河西 良治、
杉浦 幸雄、東門 申三、西奥 薰尚、橋爪 覚、深尾 孝、福富 直明、松田 實

Noo

報 訃

(2017年6月～2017年10月)

ニチメン東京社友会

※非会員

	氏 名	出身部門	ご逝去年月日	享 年
1	※米 満 亘	織 維	2017年 2月18日	74歳
2	椎 木 与志也	機 械	2017年 2月19日	93歳
3	門 松 孝	計 数	2017年 3月17日	94歳
4	※佐 藤 秀 隆	機 械	2017年 5月21日	76歳
5	朝 倉 重 道	機 械	2017年 6月21日	83歳
6	福 原 昭 二	プラント本部	2017年 8月 3日	90歳
7	柿 本 寅之助	鉄 鋼	2017年 8月22日	97歳
8	※佐 藤 守 男	財 務	2017年 8月25日	81歳
9	※三 瓶 武 昭	機 械	2017年 8月29日	82歳
10	赤 間 智 明	財 務	2017年 9月 6日	76歳
11	※数 馬 嘉 雄	経 理	2017年10月11日	64歳
12	※大久保 卓	化 工	2017年10月17日	65歳
13	堀 部 義 数	財 務	2017年10月27日	90歳

ニチメン大阪社友会

※非会員

	氏 名	出身部門	ご逝去年月日	享 年
1	佐 草 茂 男	秘書部	2017年 1月 9日	91歳
2	市 川 満 一	紙 パ	2017年 2月 17日	80歳
3	高 橋 正	化 工	2017年 3月 20日	93歳
4	大 野 嘉	織 維	2017年 4月 29日	96歳
5	高 田 善 弘	建 設	2017年 5月 8日	77歳
6	信 正 武 雄	経 理	2017年 6月 10日	80歳
7	森 山 泰 史	機 械	2017年 6月 21日	89歳
8	白 石 幸 雄	織 維	2017年 8月 24日	84歳
9	若 住 昇	機 械	2017年 9月 9日	93歳
10	浦 西 克 義	機 械	2017年 9月 23日	63歳
11	平 野 賢 次	織 維	2017年 10月 2日	100歳

ご冥福を、お祈りいたします。合掌

第30回ニチメン如月会(経理部懇親会)開催

浅 利 眞 司

6月17日(土)青学会館IVYホール(渋谷区表参道)に於いて、恒例の「如月会」が催された。今回で30回目の節目でもあり、出来るだけ多くの皆様の参加を期待したものの紆余曲折の末、20名のボーダーラインを超えることができず、幹事としても難渋しました。

それでも、新たに伊藤尚志氏(S43年入社経理課→水産課)が、また、大阪からは、谷祥四郎氏にご足労いただき、18名のメンバーが集い大変楽しいひと時を過ごすことができました。

12:00a.m.参加者全員で記念撮影の後、昨年12月26日に矢口三郎氏(享年87歳)が、今年6月10日に信正武雄氏(享年79歳)がご逝去されたことに対して、黙祷により心から哀悼の意を捧げてからの開催となりました。

最初に、発起人でもある世話人代表の名島憲一郎氏より開催のスピーチとして、この会の発足当時の話を伺いました。続いて、今回出席者の最長老である三分一克美(87歳)氏による乾杯のご発声⇒歓談⇒出席者近況報告⇒歓談⇒欠席者からのお便り紹介⇒歓談⇒幹事より事務連絡等を経て、あっという間に中締めの日となり、金井湧二氏のご発声で一本締めとなりました。

いつもは、個々人の近況報告等において決められた時間を守ることができないなど、ルールを逸脱するケースが多い中、今回は比較的良識ある態度で終始話が進行しました。三々五々談笑の輪が起こって、お互いに旧交を温め合う楽しいひと時を過ごすことが出来ました。会が終了してからもほぼ全員がレストラン・ラウンジに再結集、来年の再会を約束し15:00p.m.解散となりました。

来年2018年も、下記スケジュールの通り、同じ季節、同じ会場で、開催する予定です。ニチメン経理本部に係る老若男女の皆さま、恙なく1年を過されて、また来年も元気でお会いいたしましょう!!

第31回如月会開催スケジュール

日時：2018年6月16日(土)12:00～14:00(開場11:30)

場所：青学会館 I V Y H A L L グローリー館2階シャロン

住所：東京都渋谷区渋谷4-4-25

電話：03-3409-8181

<集合写真> 第30回 如月会参加者（敬称略）18名



向かって左から

【後列】

福井 芳樹、新藤 孝、星野 則和、大羽 陽一郎、金井 湧二、伊藤 尚志、田中 聡太郎、
太田 弘之、浅利 真司、岡田 洋輔、細井 衛

【前列】

村澤 醇治、永田 堅志郎、山本 昌裕、三分一 克美、名島 憲一郎、内海和男、谷祥四郎



NMC(ニチメンマンドリンクラブ)のご紹介

入 江 隆 史

ニチメンにマンドリンクラブという音楽クラブがあった事を、皆さんご存知でしょうか？

クラブの創設は1962年ですので、創設55年の歴史があります。今は26名の部員がおり、最低月1回は渋谷の音楽スタジオに集まり、練習をしています。

また、後ほど触れますがニチメン社歌をご存知ですか？ 正直私もこのクラブで演奏をして初めて知りました。♪歴史かがやく幾星霜～♪ 機友会などのニチメン関係の演奏会場でたまに演奏していますので、知らない方の為に歌詞と楽譜を載せておきます。

ニチメン・マンドリンクラブは1962年に創部され、最初はマンドリン・ギターの愛好者10名で近三ビルの食堂で合奏を楽しんだのが始まりです。翌年に合成樹脂部の関連会社に在籍されていた明大マンドリン倶楽部出身の野田弘氏を指導者に仰ぎ、1965年にブリジストンホールで第1回目の演奏会を実施しました。

その後、京橋ビルの地下食堂で夜間の練習をして、第4回目からは観客定員700名の東京勤労福祉会館で演奏会を開催するまでに至りました。

現在の保有演奏曲目数は200以上あり、日本民謡・ロシア民謡・クラシック・歌謡曲・ラテン・軽音楽・映画音楽・童謡など、幅広い分野の曲を演奏して楽しんでいます。

最近はニチメン以外の参加者が過半数を超え、多彩な技能をもったメンバーも参集して各方面からのお呼びがかり、忙しく、また楽しく活動が続けています。

ご参考までに直近の活動内容を紹介します。

2015年 5月10-11日 千葉での合宿

5月21日	山の手ロータリークラブ	キャピトルホテル東急
7月12日	お盆法会	東京グランドホテル
10月17日	機友会	アルカディア市ヶ谷
11月13日	慰問	筑波メディカルセンター
12月19日	クリスマス会	相模原 保育園
2016年 2月21日	山の手ロータリークラブ	代々木オリンピック青少年センター
7月5日	青山ロータリークラブ	青山ダイヤモンドホール
10月2-3日	千葉での合宿	
10月15日	機友会	アルカディア市ヶ谷
11月21日	慰問	筑波メディカルセンター
12月17日	クリスマス会	相模原保育園
2017年 5月25日	山の手ロータリークラブ	キャピトルホテル東急
6月3日	三田保育園	青梅 保育園
6月22日	品川ロータリークラブ	高輪プリンスホテル
10月14日	機友会	アルカディア市ヶ谷
12月6日	東京早稲田ライオンズクラブ	早稲田リーガロイヤルホテル

ニチメン社友会の皆様の中で楽器の演奏を一緒に楽しみたい方や演奏を依頼されたい方は気軽に声をかけて下さい。

千葉での合宿所にて



機友会での演奏



ロータリークラブでの演奏会



相模原のクリスマス会



日 綿 歌

作詞 大下 廣子
作曲 伊木 幸子

歩調に合わせ明るく



合宿所にて



歴史かがやく 幾星霜
七つの海に 雄飛して
わが綿葉の いしすえを
築きし牙城 げんぜんと
異よ分銅の 旗のもと
光さんたる わが日綿
幽霊とくに 世をおおい
試練の嵐 猛るとも
固きわれらの 団結に
商こん いかで屈すべき
起て分銅の 旗のもと
力つくさん わが日綿
行け方風 帆をはらみ
波とうをこゆる この意志
開く商路の 希望のせ
いま洋々の 門出せん
ああ分銅の 旗のもと
永遠にはえあれ わが日綿



懇 親 会

“誇れる同期生、輝く第2の人生”

園 山 春 一

39年入社の社員は120名を超え、その多くが10年程前に「毎日が日曜日」の生活に入り、今は各人各様の第2の人生を謳歌しています。その多くは自らの趣味を中心に年金生活を享受していると思いますが、「サラリーマンだった」と驚かせる過去の経歴から想像つかない別世界に進み成功した人もいます。その一人が、ここに登場する藤田画伯（藤田康弘君、大阪自動車部出身）です。画伯は趣味を超えた才能の世界で卓越した実績を残しているし、今後さらなる傑作を生み出すのではないかと感心させる「創造の世界」を歩んでいます。

以下に画伯の制作上の苦勞や苦心や工夫や苦闘振りの紹介を試みたいと思いますが、その前に来年（2018年）5月16日～28日東京新国立美術館（六本木、乃木坂）で開催されます「第70回三軌会展」の会場に出向いていただき、画伯の新作をご鑑賞いただければ、私の拙稿などよりはるかに、画伯のすごさに直接触れ感動が得られますので、会場に足を運んでいただきたくことをこの紙面をお借りしお願い申し上げる次第です。因みに三軌会というのは、絵画部門の他に、彫刻部門、工芸部門、写真部門を有し、日本にある20ほどの有力な美術公募団体のうちのひとつで、彼は2014年から応募・参加し、2016年5月に会員に昇格しています。

さて、社友会の皆様は定年を迎えるにあたり、これから有り余る自分の自由になる時間をどのように有意義に、楽しく使うか考えられたことと思います。その後、語学、俳句、ゴルフ、テニス、旅行など皆様、様々なことに打ち込み、熱中されていると思います。でも、藤田画伯のように芸術活動で日本全国規模の展覧会の審査を通り、賞まで獲得するに至る実績を誇る社友会会員の方は大変珍しいと思います。それ故に同期生にとっても誇れる存在となっています。

定年直後のタイミングで「神のお告げ」の声を聞いた幸運の人はめったにいないのです。その声が画伯に届き、その後の人生における生きがいを決めたのです。約十七年前の悩める藤田画伯は、偶然と言うか、神様のお導きによるかわかりませんが、故郷の京都の町を散策中に、ある画廊のウィンドウ越しに見た一枚の美しいヨーロッパの風景を描いた水彩画に目と心を奪われたのです。この絵に魅惑され触発された彼はすぐに、その水彩画の作者が開く画塾に通い60の手習いの第一歩を踏み出します。すなわち、水彩画の基本、基礎を学ぶのです。ここまでは、誰でもが歩める道だと思いますが、この先で藤田画伯のすごさが発揮されます。彼は師匠の指導や自らの現状の作品に満足せず、自分の描く絵画に新しい命を与えようと新しい画法を生み出すべく、必死の努力と暗闘を数年間続けます。その心血を注いだ苦闘の結果編み出したのが「ラヴァージュ画法」です。この技法は、商標登録もされ藤田画伯のみが使い、使いこなす技法で、この技法で描いた彼の絵画は独特の光彩を放っております。彼によると、ジャンルとしては水彩画に属するが、この技法で描く絵描きは日本にはいない（検証していないので世界中に居ないとは言えない）、

日本ではこの技法による作品に出会ったことがない、との事です。画才に恵まれデッサン力や色彩感覚に優れた絵描きはいるが、それだけにとどまり、満足しては日曜画伯に過ぎないと思いますが、そこからさらに進んだ独自の絵画の世界を生み出そうとする人は、若くしてこの道に進むことを選択した人を除けば、限られた人のみが挑む道でしょうが、この挑戦の道に踏み込み画伯はとうとう独自の画法を生んだのです。

そのラヴァージュと言う技法については、HP「水彩画、藤田康弘」に詳しいので興味ある方はそちらをお読みいただきたいのですが、以下に簡略に説明させていただきます。画伯は、一般的な水彩画法による作品に満足できず、何か新鮮味溢れた絵画をものにしたいと、日本の綿布の伝統的染色技法「臈纈染（ロウケツゾメ）」をヒントにこれを取り入れることを思いつきます。そして、「アクリル絵の具（一旦、乾燥すると色は落ちない）、透明水彩絵の具（発色が美しい）・不透明水彩絵の具（水で洗うと落ちる）などの異種絵の具の特性を使い分け、絵に独特の味わいを付加する技法を編み出します。もう少し、突っ込んだ説明をするとガッシュ（不透明水彩絵の具）の下塗り、アクリル塗付の後、大胆に水洗をし、絵画に微妙な輪郭線を生み出します。最後の作業では透明水彩画で着色しますが、溜め、滲み、ぼかし、たらし込みを懇切丁寧に、全身全霊を込めて仕上げます。この一連の作業で「偶然性、不規則性の輪郭線」が出現し、画伯の絵画にこれまでと違った生命をもたらすのです。彼の作品を見た仲間の画家たちよりは、“驚いた”、“水彩画らしくない新しい雰囲気”、“根気に脱帽”と言った評価を得ています。「ラヴァージュ」とはフランス語で「洗い」という意味です。上述の通り、絵としては大胆な「水洗」の過程が入るので、この名称を付けて登録商標としたものです。

その完成した絵は、写真の通りですが、白黒の上、極端に縮小したものですので、作品の持つ素晴らしさや新鮮味や繊細な筆運びや色彩の濃淡の細かいニュアンスや画伯の持つ大作を描き上げる熱意と情熱が十分伝わりませんので、ぜひ作品をご鑑賞することを強くお勧めいたします。

それでも、あえて筆力がないことを恨みつつ少しでも画伯の絵画と傑作を読者の皆様に思い描いていただくべく、画伯の2017年度「三軌会」に展示された大作を再現してみたいと思います。

題材は、イタリアのフィレンツェのドームです。夕陽に映えるフィレンツェの町に聳える教会とその背景にある町が120号の画面いっぱいに展開します。夕陽が町全体を照らしており、町の陰陽を見事に描きだしていますが、ラヴァージュ画法が遺憾なく発揮されているのがドームの屋根の部分です。一枚一枚の瓦が懇切丁寧に精密に描かれ、光との交流を、通じ描き出され、

その上ドームの夕陽に映えたり陰ったりとまるで印象派が「光」をいかに具現化するか、闘い模索したことを彷彿とさせるような絵画となっています。



花の聖母大聖堂・フィレンツェ

制作：2017年3月

ラヴァージュ画（水彩画）

120号（200x130cm）

来年の三軌展は第70回記念展となります。

2018年5月16日～28日、国立新美術館（六本木）
で開催されます。

“百聞は一見に如かず”、来年の東京、京都の「三軌展」に足を運ばれ、われらが仲間の労作、傑作を鑑賞され堪能されることをお勧めします。

故島崎・高野ご両所を偲ぶ会開催

竹 内 可 能

私たち「ニチメン農薬OB会」（代表世話人 鈴木譲治氏）では、さる9月3日（日）、都内青山の青学会館レストラン・フィリアに於きまして、昨年相續いてお隠れになった故島崎京一氏と故高野千秋氏の一回忌に因んで、「ご両所を偲ぶ会」を開催しました。

偲ぶ会は文字通り御両所を偲ぶにふさわしく、参加者お互いに華やかなりし往時の懷旧を心ゆくまで語り合い、大盛会の裡に散会いたしました。

茲許ご披露の記念写真は、このとき勢揃いした旧ニチメン農薬部門関連の仲間の皆さん方を撮ったものです。ご参考までにご参集の諸兄姉のお名前（敬称略、苗字のみ）を記載させていただきます。



（後列左から） 鈴木（譲）、鈴木（攻）、吉羽、村上、箕作、斉藤、保泉、牧野、家田、松本、橘、伊知地。

（前列左から） 椎木、浅井、寺田、竹内、尹、和田、大村、滑川、榊村。（以上21名）

一木会開催報告・次回開催予定

奥 村 睦 夫

一木会とはOB現役を問わずニチメン木材本部並びに本部関連会社に在籍経験のある方々の会で、現在は年3回（1月、5月、9月）のペースで開催しております。関西、名古屋、海外在住の方にも声をかけております。

毎回20名前後が集まり、旧交を暖め、語らい、お互いの無事を確認しております。毎回の事ですが、「どこそこが痛いとか手術したとか、あの病院はどうだったとか・・・」年配者の集まりならではの話題が多く、いつもより少しだけ酒量も増えて皆さん時が経つのを忘れるぐらい楽しんでいます。

会名由来：1983年度から連続10年間、四大外材（米材、南洋材、北洋材、ニュージーランド材）輸入量で業界ナンバーワンだったことを記して「一木会」となり、開催月第一木曜日に集合することになったと先輩から耳にしております。

会則無し、会長など役員無し、会費も無し、開催都度の実費割り勘と、気楽に集まり昼食プラスちょっと一杯を楽しんでおります。

開催報告：

- 2017年5月13日（土） 於 「学士会館」内「紅樓夢」
- 出席者：鎬木順治郎 山口一光 武田尚憲 松尾憲一 曾我宏司 白石哲也 青井勝
北大路康信 高尾勝 菅野昌熾 鎌倉幸一 村田省一 奥村睦夫 13名
.....
- 2017年9月7日（木） 於 「美里」：JR新橋駅近くのヤクルトビルB1
- 出席者：大久保海生 武田尚憲 小田有久 小島紀夫 青木浩 北大路康信 林光生
松原正治 今井明 青井勝 鎌倉幸一 山口一光 杉野智彦 曾我宏司
白石哲也 松尾憲一 鎬木順治郎 奥村睦夫 18名

次回開催予定：

- * 2018年1月11日（木） 11：30 ～ 14：00
- * 場所：「美里」：ヤクルトビル（新橋駅から徒歩5分）



ニチメン合同ネシア会開催のご案内

2017年10月吉日

Kepada ;

Tuan2 yang kami terhormat.

Dengan surat ini kami sampaikan.

Kami akan melaksanakan Bertemuan Teman2 Lama yang pernah bekerja sama di Indonesia seperti dibawah,,, .

Tempat : 「浜名湖弁天リゾート・ジ・オーシャン」

浜松市西区舞阪町弁天島3285－88 JR弁天島駅徒歩3分

電話：053－592－1155 担当：星野さん

⇒取敢えず30名分仮予約済み

Waktu jam : 2018年4月23日 (senin) 泊～24日 (selasa)

・4月23日15時以降チェックイン可 18時～夕食＋宴会

・4月24日10時ごろ解散

Ongkos : @¥16,000.- ±アルファ

Terima kasih atas perhatiannya dan harap maklum.

Panitia mumbuat acara oleh ;

Mr M. Okumura

かねてより、元所長及び多数の方々から「所属部門を超えたネシア会」開催の要望があり、小生が世話役を仰せつかりました。

これまで、小山良氏（ジャカルタ在住）ほかのご協力により駐在並びに長期出張経験者のリストアップを進め、現在までに下記の如く故人も含めて200名近くのお名前を知り得ました。

・・・・・・・・・・・・・・・・

① Eメールアドレスが分ってる方々（リスト中の＊印）にメールで案内しました。

② メールを受信された方をお願い

⇒リストを一覧し、姓名の？、所属の？、Eメールアドレスが分からない方々に付き、アドレス、携帯電話番号ほか連絡先をご存じなら、奥村までご一報願うと共にお誘合せのうえご参集ください。

③ 広報：

・「ニチメン東京社友会」会報（23号：2017年12月1日発行）並びに、同ホームページ「OB会」欄をご覧ください。

・「ニチメン大阪社友会」会報並びに同ホームページをご覧ください。

出欠の連絡先・問合せ ⇒ 奥村睦夫（元木材本部）

●Eメール : okumura1946@canvas.ocn.ne.jp

●携帯電話 : 090－6478－1981・・・SMS可

インドネシア駐在、並びに長期出張経験者リスト:

*印=アドレスが分ってる方々

所長・次長: 伊藤豊 折口鞠負 黒川智水 *林喜久雄 山本勝之 *山岸正雄
 財 務 経 理: 大場禎治 内藤彰良 *名島憲一郎 中村徳行 梶潟磐夫 村崎伸郎 守岡隆
 弓指敏明
 木 材: *青木浩 *稲垣基直 *五十川暉夫 *市村秀孝 *内田真二 小川忠彰
 *岡村誠二 *奥村睦夫 *太田昌秀 *大山弘雄 *柿木豊 *鎌倉幸一
 亀井彬 *川畑勝四郎 *北大路康信 *北川嘉雄 *穴戸由卓 *白石哲也
 芝良政 品田達郎 *角田弘之 *椿祥二 *中川勝弘 平沢悦郎 *松原正治
 *松村茂正 南長久 *村上正美 森川博 森田忠利 山下丑雄 *山守興治
 *吉元徹 和田耕二
 プ ラ ン ト: 井上健志 内田英三 岡村宏 川崎秀憲 谷本哲哉 水江誠一 吉内健次
 立古健策 若原哲夫
 機 械: 雨宮重正 鍵本孝三 嶋谷弘一 須藤豊 須佐和夫 タルーン 高橋正広
 平岡尚 山田寛治
 船 舶: 山田賢 平口靖則
 ヤ ン マ ー: 辻井準一
 自 動 車: 浅田修弘 奥田和彦 角田和雄 藤田康弘 梶田康生 森田稔 山田祐司
 ア ス ト ラ: 上野英治 *細井衛
 ダ イ ハ ッ: 太田弘之
 鉄 鋼: 石原牧 小笠原貴文 *川崎毅 金城弘明 黒崎健治 坂根正敏 *菅野幹二
 西村弘 早川敏彦 藤田徹 本間一彦
 カ リ ス コ: 青木真司 北原伸一 田村勝治 玉井? 田島正晴 垂水? 長元基 平野勉
 松本功
 ト ブ ス コ: 北島陽二郎
 ム サ シ: 岩井? 田窪一彦 *中村孝 茂木良夫 *山田安見
 織 維 機 械: 大谷林 *岡崎謙二 坂田善則 中村吉夫
 織 維: 安藤寿敏 井上一彦 奥田哲 大里宗久 斉藤和人 柴谷武史 関口雄一
 谷内薫 高橋修造 中安一仁 西野正昭 松岡雄治 松田浩司
 吉村貞樹 由本宏二 領内克英 若宮勝治
 モ リ ウ チ: 尾上健一 尾上浩司 寺田? 三宅? 奥野公夫
 ピ ン テ ッ ク: 佐野稔
 合 樹: 安城裕 近藤幸生 坂井陽爾 山口裕三
 化 工: *石原啓資 宇野澤幸政 小西高裕 *羽山義明 兵頭俊幸
 化 学 品: 近藤正一 外林俊浩 竹内可能 中村智一 藤井剛 松村順 吉羽伊津夫
 鈴木譲治
 専 商: 池原誠 氏岡篤志 吉田道孝 山中太一 領内克英
 水 産: 石黒真三 伊藤尚志 大久保敏郎 織原徹 楠誠司 *小山良: ウタマ⇒財経
 中村雄一 福原? 山崎和信
 ミ カ セ: 小川隆 長田勝秀
 食 料: 小平実
 物 資: 辻田彰 平塚恒一
 建 設: 大坪俊郎
 機械・法務: *山邑陽一
 所 属 ?? : 川村博行 菰田雅治 矢野音道 野上繁 半井重義 牧洋生 吉村英樹

故 人

有賀正和: 木材 江崎陽三: 所長 岩田昭二: 所長 梅田義政: 木材 大崎靖也: 水産
 大西憲二: 木材 加藤一葉: 食料⇒木材 内蔵田卓: 繊維 篠原均: 鉄鋼 鈴木松男: 木材
 高嶋英久: 木材 竹内郁夫: 木材 田畑実: 化学品 西田八州男: 木材 浜田雄三: 所長
 福岡壮一: 水産 藤岡浩: トブスコ 松本理則: 木材 丸山修作: 繊維機械
 三尾川常松: 木材 宮崎孝: 所長 盛敦: 合樹 脇田武志: 木材 藤井明: 合樹 以上

懐かしのジャカルタ



↑ ジャランタムリン72年 ↓ アンタラビル



↑アッチッチ像 ↓ランドマークビル



⇒⇒
サリーナ
1969年
最上階は
カジノだった



↓ ↓ ジャカルタ摩天楼 2010年



モナス←

→スナヤン

俳句の会「いろは句会」

宇治田 薫

平成元年1月25日発足の「いろは句会」は、年明け丸30年を迎える。平成24年2月太田昭主宰亡き後、会員相互の自主運営による同好会として継承し、自己研鑽に勤しみつつ今日に至る。

入会ご希望の方はご遠慮なく会員宛お申し出願います。

前号の会報以降、本年5月から10月迄の月例句会に投句された中から、会員自薦の句を茲許ご披露致します。(五十音順)

神宿る潮の涼しき沖ノ島
秋の宵久しく遭はぬ人のこと

宇治田薫風

もぎたての蕃茄並べる農夫かな
雑草の朝露光る休耕地

久保田悦子

睡蓮の葉に見え隠れ釈迦の影
御巢鷹の夏忘れまじ鶴の羽

佐藤 英二

さっぱりと夜濯ぎあとの身の濯ぎ
睡りへといざなふ枕虫時雨

下川 泰子

夜半の秋路地裏に揺る赤提灯
犬と行く釣瓶落しの散歩道

田中 秀明

白々と新樹の聳ゆ朝まだき
上りゆく棚田の果てに雲の峰

塚本 光生

骨組をみせる櫓や踊果つ
考と妣墓は別なり叢芒

藤野 徳子

金木犀あの人にまた会へさうな
この畔もまたあの畔も曼殊沙華

堀部 暁

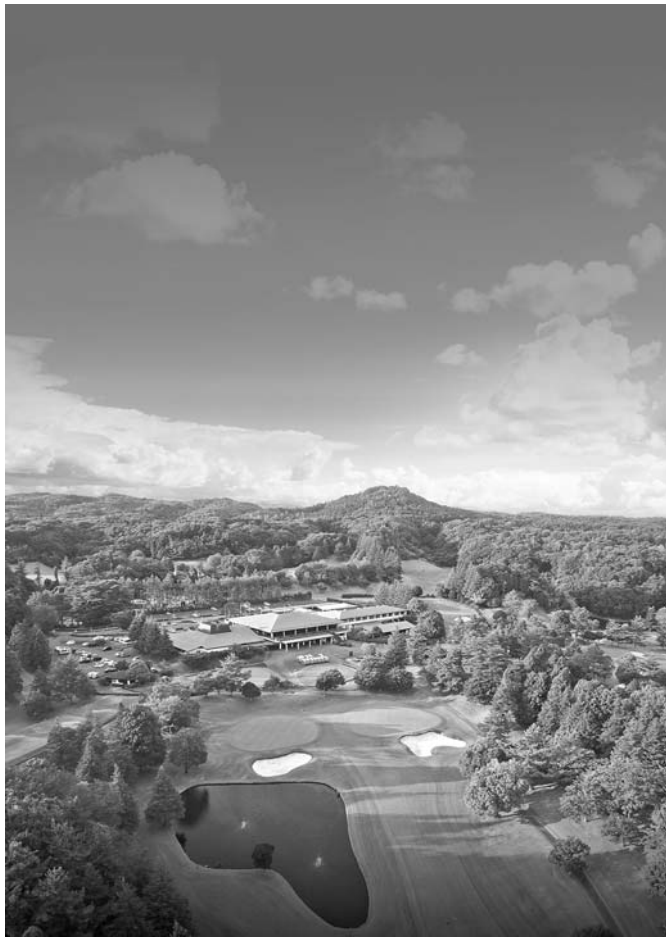
たくましや朝日を浴びて新樹の香
夏立つやパステル色の水平線

若月 義和

ニ チ メ ン 笠 間 会

“第300回記念大会を終えて”

石 原 靖 造



39年・300回 この数字を実感出来るものとして皆さんは何を思い浮かべられるでしょうか。

私は生まれたばかりの赤ん坊が小・中・高・大学を卒業して結婚、今では二児の父親で仕事に懸命と言った道程でしょうか。そして300回は素直に10か月、もうすぐ一年と言ったところでしょう。

昭和53年（1978年）ニチメンが造成したゴルフ場富士カントリー笠間倶楽部の開場と同時にニチメン笠間会は発足しました。爾来39年の道程を経て今年の6月に無事第300回記念大会を成功させました。その後も回は進んでこの11月では304回を数えます。

39年の内一年近い10か月の間毎日ゴルフをしていた事になります。

如何してこんなに長く続ける事が出来たのか色々考えて見ました。

まず第一は何と言っても一級品と言えるゴルフ場の魅力でしょう。ゴルフ協会の公式認定を受けたチャンピオンコースは何度打ちのめされても又挑戦したい気分を駆り立てて呉れます。

関東圏倶楽部対抗戦では昨年度が4位、今年は12位の成績から見ても実力者が揃って居り、レベルの高さが伺えます。

四季折々の草花や鳥のさえずり、深い緑に包まれた大自然は都会の喧騒やビルの谷間から一時逃げ出したいと思う者にとってそれは大きな魅力でしょう。

第二は同好の仲間です。

発足当初からメンバーはニチメン社員と関係先の方達でしたから、お互い気心の知れた者同士で、纏まる事にさほど苦労は要りませんでした。長い年月の間には志半ばで亡くなられた方や体調崩された方も居られましたが、皆さんの努力で同僚、後輩を誘ったり、ジュニアも何組か参加されて居り、今では下は36歳から上は85歳まで世代を越えて和気あいあいムードが培われています。

常磐高速の無かった時代は、皆バッグ担いで行ったものでした。

帰りの電車を待つ間、駅前の飲み屋は超満員、皆一杯機嫌で帰った事も今では懐かしい思い出です。高速開通後は車使用が多くなり電車組は数名になりましたが、それでも帰りのグリー

ン車の一角は即席バーに早変わり、終点上野までは宴会です。

お互いにゴルフの話だけではなく、健康上の話や色々な話題を忌憚なく語り合えるのも楽しみの一つです。

三番目はコンペが誰にとっても公平でしかも楽しくプレーできるルール作りでしょう。

優勝や各等位賞を初めドラコン・ニヤピン・ベスグロ賞に加え馬券やオネストジョンと言ったお遊びも組まれて居り、毎回“勝った、負けた”と騒ぐ事になります。

ハンデは優勝者が3割、準優勝は2割、3位が1割減らされますので、誰にもチャンスは巡って来ます。ハンデ改訂は2年毎で、その間の成績を基に算出されたもので又新しくスタートする事になります。

競技をスムーズに運ぶ為の工夫も色々あります。

ワングリップOKを初め打球が行って見たらOBやロストの場合に戻って打ち直すのではなく、その辺りから2打罰で進むとか、80歳以上はゴールドからと言った具合です。

ゴルフ場の協力も挙げて置かねばなりません。年間スケジュールの策定、毎回宴会場の設定、電車の為の送迎バス手配、成績表作成等々ゴルフ場とは持ちつ持たれつのか関係をこれからも維持して行きたいと思っています。

最後に、否最初と言った方がいゝかも知れませんが、どの様な組織も健全な運営にはしっかりした世話役が不可欠です。

久本紘一常任幹事、若原哲夫会計幹事の両名がこの厄介な任務を長年引き受けて呉れて居ます。ゴルフ場との折衝、会員名簿やスコアの記録、ハンデ改訂作業、資金の管理等労を厭わぬ作業が会運営の柱であると言えるでしょう。会の末永い存続に向け引き続き大役に当たって貰いたいと願っています。

以上会員皆さんの努力と協力で我ニチメン笠間会は毎回楽しいコンペを重ねていますが、ゴルフを取り巻く環境は厳しく成りつゝあり、忘れてはならない側面も多くあります。

1994年1200万人あったゴルフ人口は今では800万人位まで減ったと言われています。理由は幾つか考えられます。

矢張りお金も時間も掛りますし、健康上も腰や背骨を傷め易く、健全なスポーツではないと言う人も居ます。個人競技ですからミスショットは全部自分に跳ね返ります。苛々して周りの景色など見る余裕はなく、プレー後の美味しい筈のビールもほろ苦いものになり、精神衛生上いゝ筈はありません。加えて丸一日奥さんや子供さんを置いたまゝ、自分だけ楽しもうとしてる訳ですから、不人気になるのも止むを得ない処です。ゴルフ協会も人気挽回に努められてる様ですが、総人口自体が減る中、思う様に先は見えていない様です。

以上の様にゴルフには功罪両面ある訳ですが、我々笠間会はその負の側面を充分理解し、克服しながらこれからも“ゴルフ場ある限り笠間会は共にある”をモットーに前進して行きたいと願っています。

現在私は推されて理事とハンデキャップ委員長の任にあり、久本君は競技委員を勤めています。皆さんを代表して少しはゴルフ場のお役に立っているのではと自負している処です。

最後になりましたが、ニチメン笠間会は何時でも門戸を開放しています。一流コースで腕を磨きたい方、愉快的仲間と接したい方、美しい自然に触れたい方、何方でも何時でも結構ですので扉を叩いて下さい。大歓迎致します。

笠間会メンバー紹介と連絡先：

桜井潤一（最高顧問）

石原靖造（会長）

望月清夫（副会長）

久本紘一（常任幹事）

若原哲夫（会計幹事）

松川力夫（技術顧問） 榊湯磐夫（エチケット委員） 加藤弘三 吉本邦晴 高木常吉

川崎毅 星加恭 島田重一 近藤善行 伊藤和真 植村健 岡島隆司 田中伸介 杉原茂

丸田秀 上田吉彦 南部匠 法師人真一 望月道生 久本慎二 高木俊介 星加貴久

以上計27名

富士笠間の詳細はURLをご覧ください。： <http://www.kasama-club.com>



{後列左より} 岡島隆司 高木俊介 近藤善行 星加貴久 加藤弘三 榊湯磐夫 星加恭
島田重一 上田吉彦 若原哲夫 松川力夫 伊藤和真
{中腰左より} 高木常吉 久本紘一
{前列左より} 久本慎二 望月清夫 石原靖造 桜井潤一 吉本邦晴

第12回ニチメン機友会開催の御報告

山 岸 正 雄

第12回ニチメン機友会は平成29年10月14日（土）予想を上回る55名の参加者がアルカディア市ヶ谷会場に集まり大盛會裡に開催されました。茲に御参加戴いた皆様に感謝を申し上げると共に、御都合が悪く参加出来なかった方々に今回の機友会の様子をお知らせ致します。

1. 開催日と会場及び参加人数について

開催日は従来利用してきた八重洲富士屋ホテルが閉鎖となり会場をアルカディア市ヶ谷へ変更以来、御参加される方が覚え易い様に10月の第二土曜日と定め、今年も第二土曜日の10月14日に開催した次第で、来年度も同様に10月の第二土曜日に当たる10月13日（土）が既に予約済みでありますので、御参加を希望される方々は是非御記憶戴きたいと存じます。

参加人数は高齢化が一段と進み初期の開催時に御参加戴いた大御所・御長老の方々は残念ながら鬼籍に入られたり、体調不良で欠席が続出し、若い世代の御参加が殆どで機友会も世代が変わった感が致します。過去の参加人数の70名台から暫減が続き「減ることはあっても、増えることは無い」と言われた趨勢の中、1名の当日のキャンセルのみで、55名の方々が秋雨の足下の悪い中御参加戴けたことは、参加された御本人の日程や体調管理の賜と敬意を表することは勿論のこと乍ら、後述する幹事・常任委員の皆様の緻密且つ周到な準備作業と行動力のお陰と感謝する次第です。

いつもの事乍ら、当番幹事の最大の関心事は参加者の人数で如何に多く集客出来るかであり、その為どれだけ会費を安く出来るか、食事内容や会の内容を充実出来るかに腐心する事は当然乍ら、案内状に対しご返事を戴けない方や欠席が常習の方も含め、嫌味無くソフトにリマインドを試み、御参加をお誘いすると云う難しさが要求され、結果が参加人数として表われて来るからです。

2. 宴会の様子

会の内容は従来同様に進められ、先ずは司会・進行係の木皿幹事の開催宣言の後、過去1年間に不幸にしてお亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りし黙祷を捧げることから始まったが、読者の皆様にも茲に改めて黙祷を捧げた方々のお名前と旧所属部を記載し、御冥福を祈られんことを切望します。

黙祷を捧げた方々のお名前

専務取締役：杉本 佳久
渡橋プラント部：金沢 英雄。 福原 昭二
東京自動車部：越野 良治。
大阪自動車部：若住 昇。 浦西 克義。
東京財務部：佐藤 守男

次いで、水庫機友会会長よりいつも乍ら弁説さわやかな御挨拶があり、特に機友会は会員制を採っておらず会費制も無く、「何方でも旧ニチメン機械部にお付き合いがあり、その後の消息知りたい乃至は親睦をふかめたい方々の御参加は自由であり且つ大歓迎である」との御

発言が印象に残った。

その後を受けて、筆者が幹事代表として簡単な御挨拶と当番幹事の紹介を行い、今回の機友会の実務全般を担当された木皿、今村両幹事を紹介し、更に双日の現役幹部でありながら旧ニチメンプラント部出身の兼子、藤井幹事を紹介、今回の準備作業を進める上で、双日の会議室の予約・確保（都合5回）、大量のプリントやPCを駆使した名簿の作成、案内状のメールアウト等組織を利用した協力は計り知れないものがあり、多大な貢献であったとお伝えした。特に海外出張が重なった事が再三あったが会議の日程をすり合わせ出席された努力を賞賛したい。

更に、余り知られていないことだが、機友会には常任委員会が創設当時より存在し、単年で交代する当番幹事の実務状況を見守り乍ら「会がスムーズに運営されるよう」助言を与える組織が在って、過去11回に及ぶ会運営の実績・経験から適切な御指導を戴いた次第で、この機会を利用しメンバーの水庫会長は固より総務全般を担当されている豊間根委員、会計担当の久本委員、更に全般に亘り御指導を戴いた佐藤（統）、池永、林、保科委員の方々の御名前を披露し御指導に感謝を申し上げた。又、例年受付御案内の御願ひする女性の確保が課題となっており、今年も伏して御願ひし、会に花を添えて戴いた久佐賀さん、岡田さんも壇上にお上がり戴き御紹介して筆者の紹介を終えた。

次いで、「御挨拶と乾杯の音頭」を大阪から駆け付けて戴いた田中長典さんに御願ひし、御自身のニチメン時代のお話も含め御挨拶戴き、乾杯に移ったが、会食に移行する前の僅かなお時間を割いて戴き、機友会の常任委員で過去大変お世話になった朝倉重道委員の御逝去を偲び生前最も親しかった古屋章さんに御願ひし、思い出話を含め御言葉を頂戴し本格的な会食に入った。

3. 新しく取り入れた最近のプラント成功例のプレゼンテーション

宴会の途中にプラント部の会らしく今回特別な試みとしてOB諸兄が、その後どのようにプラント事業を世界各地で展開し実績を挙げているかを参加者の皆様に、その一端をお示しし元気になって戴こうと企画し、双日の現役で活躍中であり、且つ今回の幹事も担当されている藤井俊輔さんが最近成約した「トルコ Ikitelli 病院プロジェクト」と云う壮大な事業契約を御披露願った。案件概要はこれから3年かけて病床約2,700床の東京女子医大病院の約2倍の規模の病院を建設し、医師・看護師数4,500人、外来患者22,000人/日規模の病院を立ち上げ、25年間に亘り施設管理や医療関連サービスの提供を行う事業で、総事業費は2,000億円という快挙をお伺いし、次いで建機OBの山路次郎さんより「NPO 法人 ラオス薪炭林造成プロジェクト」の事業説明を戴いた。中国の対日薪炭輸出禁止策に対応しラオスで植林し薪炭を製造し日本へ輸入する案件で両国に採ってウイン・ウインの関係が成立し新時代のニーズに適った事業を御紹介戴いた。形態は変われどいろいろなプラントが脈々と現在に受け継がれ、立派な成果を挙げている現実に触れ、嬉しくもあれ誇らしく、御成功を祈りつつ元気を戴いた。

ニチメンのプラント輸出は他商社に先駆けて1950年代から取り組み、ミャンマーのバルチャン南北送電線工事、インド交流電化工事、タイ橋梁。プノンペン農牧畜センター建設等他社の追随を許さぬ一時代を謳歌したが、そのDNAが現在息づいている思いに至り懐かしく、当時共に働き御指導を受けた先輩の多くは既に鬼籍の人となっているが、改めて偉業に敬意を表する次第です。

4. 宴会の後半

宴会の後半は、恒例の“青春時代”を全員で合唱世代を超えて若き日々の活躍に思いを馳せ、歌の文句通り共に現役時代の中にいるかの如く盛り上がった。

最後は木皿幹事の一本締めを以て“中締め”を行った。引き続き、来年度の機友会の当番幹事役は電子電気部に当番が回るので、バトンを当番幹事役の五月女さんに渡し、来年度（既報の通り来年度は10月13日（土）開催決定済み）に望む抱負を語って戴き機友会を無事終了する事が出来た。

最後に忘れてはならない協力者としてニチメンマンドリンククラブに触れておきたい。今年の機友会も、宴会の間、素晴らしいバックグラウンドミュージックで賑わいを一段と盛り上げて戴いた。音楽が有るのと無いのとでは格段の違いで、楽団の皆さん（今年は19名の御参加）も日頃の練習成果を発揮する機会を得たかのように御奮闘された一流の演奏に、拍手と感謝を表したい。

幹事としては、機友会に御参加下さる方々に如何に“おもてなし”出来るか、参加費用をミニマイズする努力は勿論、最寄りの駅から近いか、料理の内容や見栄えはどうか、終盤で足りない事態が起こらぬよう減り具合を観察しどの時点でどんな料理を追加発注するか、満足度はどうか等役割を決め宴会の運営を行ったが、額屋裏のご苦勞に感謝したい。

終わりに当たり、機友会の趣旨は「会員相互の親睦と交流を通じた情報交換」であるがこれからも会員各位が老後に向けやりたい事に挑戦し活力のある充実した人生を送られ、その成果を機友会で親しき仲間に自慢出来る様な毎日を送られ、来年も再会出来ることを願いつつ御報告を終わらせて戴きます。

第12回機友会記念写真(2017年10月14日)



後列左から（敬称略）：

難波靖史・内田博夫・久本紘一・倉又則夫・川田英之・保科孝

前列左から（敬称略）：

林正弘・吉本那晴・本田務・水庫博夫・田中長典・山岸正雄・林幹雄・溝江博三・五月女穰



後列左から（敬称略）：

三原均・池永浩・北川幸雄・大羽陽一郎・大曾根誠・蒲沢信夫・宮崎正司・平川真淳

前列左から（敬称略）：

山路次郎・中村静人・南部捷郎・倉又則夫・岩村久雄・稲治寿・川西勲・荒木武雄・吉内健次



後列左から（敬称略）：

兼子敏明・中谷宣英・佐藤統次・今村隆夫・高橋要・若原哲夫・外岡敬久・鈴木淳一・佐山宗彦

前列左から（敬称略）：

杉浦俊之・細井康男・数森正彦・上田吉彦・藤井俊輔・高橋要・山邑陽一・安武国章・高柳真敏

写真が撮れなかった方達（敬称略）：

石川明・木皿重正・藤原（深井）希代・古家章・松野弘・久佐賀（嶋）文月・岡田真弓・湯浅莊三郎・豊間根政行

会員寄稿文

ミステリ小説断想』(6)

福 富 直 明

1. タッカリゼーション

アメリカの作家の小説を読んでいると、聞いたこともない人物が出てくる。「トレント・ロットみたいな髪型」とか「長髪をオールバックにした扇動的な黒人説教師」といった表現は、アメリカに住んでいれば即座にぴんと来るのだろうが、ネットで検索しないと分からない。ロットは2002年頃共和党の院内総務だった上院議員で、失言して辞職した男だとすぐに分かったが、黒人説教師のほうはかなり手間取ってから、挑発的な言動で白人を攻撃したアル・シャープトンらしいと判明した。どちらも、一時期マスコミで話題になった曲者のようだ。彼らに言及しているのは、作家が共和党や説教師の言動を婉曲に揶揄している含みがある。

作家を研究するとなると、こんな風に作中に出てくる人物を調べ、作家がその人物に言及した裏にあるものを探り出さねばならないが、妙な迷路に入り込んで翻弄されることもある。エド・マクベインの小説だと、公園や街の広場に将軍の銅像が出てくる。ある作品に「風の彼方を見つめる馬上のハーバート・アレクザンダー将軍の銅像」が登場した。これは作者の歴史への関心を示すヒントだと思い込んで、馬上の将軍なら西部開拓か南北戦争の時代だろうと見当をつけて歴史書や百科事典を調べ、わざわざ都立中央図書館にまで行ったが、見つからない。その後、他の作品の最後のページにこの名前を見つけた。邦訳では省略されていた1ページに編集者の叱咤激励に感謝する言葉が述べられており、その編集者の名前がハーバート・アレクザンダーだった。マクベインは編集者を将軍にして感謝の気持ちをユーモラスに示したわけだ。

この発見のおかげで、銅像の将軍たちのある者は火曜日の夜のポーカー仲間だったり、公園の隅で鳩の糞にまみれているリチャード・コンドン将軍というのは、マクベインが駆け出しの頃はまだ若手の刑事だったが、後年はニューヨーク市の警視総監になった人だったと判明した。一度会ったが、警察官というよりは大企業の会長のような風格があった。

こういうのをtuckerizationという。50年代のSF作家のウイルソン・タッカーが自作の小説の端役に友人たちの名前を仲間うちのジョークとして使ったことから始まった。マクベインは将軍の銅像に限らず、フェリーボート、劇場、スケートリンク、ストリート、学校の名前などに友人の名前を使った。作中で殺される女がエド・ヴィクター高校卒だったと出てきて、エド・ヴィクターって誰だと思っていたら、何かの拍子に、フレデリック・フォーサイスやマクベインのイギリスの版權エージェントであるのを見つけた。

彼が1998年に発表した『最後の希望』の第10章にフロリダのカルーサ市(架空の街)のハイスクールの生徒たちがスクールバスをかつぱらって遠出するエピソードが出てくる。このハイスクールの名前が私のペンネームになっていた。驚いたとマクベインに伝えたと、ほー、きみの名前と同じ学校があったとは何たる偶然だ、あの学校はイエールやハーヴァードへの進学率の高い名門校だよとふざけた返事が来た。学校の名前になるのは、必ずしも学校の創立者だという意味ではなく、JFK空港、ダヴィンチ空港のように偉人の名を不滅のものとする(immortalize)ためのジェスチュアである。

2. 誤訳

どこかに出張した途次、当機はまもなくカルカット・ダムダム空港に到着いたしますという機内アナウンスを聞いて、昔、ダムダム弾と呼ばれる銃弾があったのを思い出した。殺傷力が強く、非人道的な武器と見なされ、1899年のハーグ会議で戦闘での使用禁止の協定が成立している。そのダムダム弾とカルカット空港と関係あるのかと調べてみたら、ダムダム弾を製造したのがカルカット北部のダムダムにあったイギリスの造兵廠のOrdnance Factory Dumdumだった。ネットで見ると、いまでも同じ場所にインド軍の造兵廠がある。

弾頭が硬金属で被覆されている銃弾は人体を貫通するが、ダムダム弾のように軟らかい金属の弾頭（soft-nosed）だと、命中したときにひしゃげて大きくなり、負傷がひどくなる。ダムダム弾という呼び方はいまでも英和辞典に載っているものの、ほとんど死語だが、銃弾自体はsoft-nosed bulletの名称で現存している。

最近好評のアクション小説の翻訳にソフトノーズの22口径弾の拳銃を使う暗殺者が出てくる。22口径の弾は直径5.5ミリである。被害者の検死をした医師が射入口が小さく射出口が破裂したように大きいと説明する。それを聞いた主人公は

「ソフトノーズ弾はまさにそういう銃創を残す。まず、体内に入った瞬間、弾はひしゃげる。そして4分の1ほどの鉛のかたまりとなって、組織をつき破っていく。体外に出るときは、大きな穴をあける」

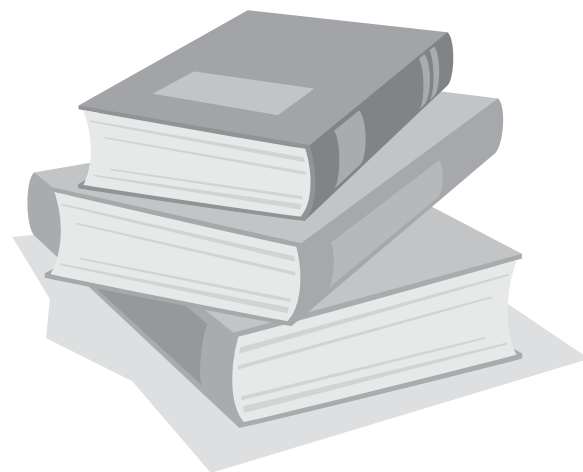
と考える。よく読んでみるとこの訳文はどうもおかしい。“4分の1”になるのなら、大きくなるのではなくて小さくなって、5.5ミリの弾が1.375ミリになると言っているのだから、辻褄が合わない。暫く考えてから思い当たった。‘4分の1’の原文はa quarterなのではないか。quarterには25セント硬貨の意味もある。このコインの直径は24.257ミリだ。5.5ミリの弾が射出口では

25セント玉の大きさの傷を残すと言っているのだと思う。

3. ミスプリント

輸出プラントの契約書には日本から派遣する技師に処遇に関する細かい規定が盛り込まれている。ある契約書を読んでいて、たまげた。技師が派遣期間中に死亡した場合は、茶毘に付して遺族に‘arm’を、つまり片腕を送ると書いてある。片腕をちょんぎる？まさか、どう考えてもおかしい。ほかの契約書と照らし合わせてみて、‘arm’は‘urn’（骨壺）のミスタイプだと分かった。幸い、在職中に片腕が送られてきた事件はなかった。

ミスプリントといえば、investという単語を入れた手紙をタイプしてもらったら、‘incest’〈近親相姦〉とミスタイプされたことがある。タイプライターのキーは、cとvが隣り合わせに並んでいるから、ほんのちょっとした間違いなのだが、出状前に発見したので恥をかかずにすんだ。



会員寄稿文

「スターウォーズ英和辞典」誕生

芳 賀 信 明

この会報が皆様のお手元に届くころには、多分映画「スターウォーズ」第8作目の日本公開が間近に迫り、テレビでも映画のコマーシャルなどを放映しているかもしれません。

今年は映画スターウォーズ第一作公開から記念すべき40周年の節目にあたります。

1977年、ヒューストン駐在も5年目を迎えたある日、私は家族4人を伴って映画「スターウォーズ」を見にでかけました。

1972年の着任時4歳だった長男は小学校4年生に、2歳半だった次男が小学校2年生になっておりました。そこへ1973年にヒューストンで生まれた娘も4歳になって加わりました。

ショッピングモールの中の映画館の前は長蛇の列で、見終わった観客たちが興奮した面持で出てきました。

私の感覚では、映画は筋の途中からいき

なり始まった感じで暗黒の宇宙に繰り広げられる宇宙戦争の画面に見入ったものの、ストーリーの方はあまりよく分かりませんでした。

子供たちも宇宙戦争に興奮したらしく、学校ではスターウォーズの話題で盛り上がっていたようです。今になってDVDで第一作を見直してみますと、やはりストーリーは途中からはじまっており、それまでの経緯はオープニングロールの字幕で説明されています。

6年半に及ぶヒューストン生活の中で、ようやく子供たちも成長し、Rated Gの映画なら家族連れで見にいけるようになったのが、この頃です。

今から思い返しても、この年はアメリカ映画の当たり年で、「スターウォーズ」のほかに「未知との遭遇」「サタデーナイトフィーバー」など家族連れで見に行きました。アカデミー作品賞は地味な「アニー・



ホール」が受賞しましたが、スターウォーズは視覚効果賞や録音賞など6部門で受賞したものの、メジャーな賞は受賞しませんでした。

それから三十数年、スターウォーズグッズのコレクターになっていた次男は、勤務先の出版社から2014年12月「スターウォーズ英和辞典 ジェダイ入門編」なる本を上梓いたしました。

この辞書は出版される前から、かなりマスコミの評判になり、新聞、テレビ、ネットなどで多数取り上げられております。

たとえば2014年12月28日のBS日テレ久米書店では本書を取り上げ、次男が檀蜜さん相手に固くなって本書の説明をしています。また2015年1月20日のBayFM 78では司会の有村昆さんは息子との対談を終わって、こんな締め括りをしてくれています。

「ベイラインWOWには、スターウォーズがあまりにも好き過ぎて、世界初となるスターウォーズの英和辞典を作っちゃったと言う学研教育出版の辞典編集室長 芳賀靖彦さんにお越しいただきました。芳賀さんは、ちょうどアメリカにいたところにスターウォーズが公開、そのころから大ファンになったそうで、名場面の例文による「スターウォーズ英和辞典 ジェダイ入門編」その内容をネイティブな英語の発音で説明していただきました。」

この年はマスコミの前宣伝が効いて「Amazonでは英和辞典カテゴリーに登録されているこの本だが、現時点では辞書カテゴリーを飛び越えて、本のカテゴリー1位になるなど大人気。公式ロゴを利用した装丁も凝っており、ファンなら要チェックと言っていいだろう。」

(Yahooニュース、やじうまWatch 2014年10月17日付) と言うように売れ行きも好調でした。

この辞書の特徴は一般の学習用英和辞典

と違って、映画スターウォーズから英語を学ぶことを目的としており「劇中のセリフおよび旧三部作に登場する中学レベルの英語など、約1000語が例文つきで収録されている。なかでも見どころなのは、ほぼすべての単語に本編映像のキャプチャー、もしくは描き下ろしのイラストが掲載されていることで、単体で読んでも楽しめる一冊になっている。」(同じYahooニュース)

翌2015年9月3日には第2弾となる「スターウォーズ英和辞典 ジェダイ・ナイト編」を発行。第一作ほどではありませんでしたが、やはりマスコミで取り上げてくれました。日経ビジネスオンライン(2015年12月25日付)ではジェダイの名セリフで英和辞典が異例の大ヒット との見出しのもと「第一弾の作りを踏襲しながらも掲載する英単語をレベルアップ。第二弾では、新三部作エピソード(1~3)に出てくる高校・大学レベルの英単語を中心に約1000語を収録している。」としたうえで以下のような息子の談話を乗せています。

「この企画は、新作「スターウォーズ/フォースの覚醒」(第7作目)に合わせて立ち上げたものではありません。個人的な話になりますが、私は子供のころからスターウォーズのファンで、いつかはスターウォーズをテーマにした英和辞典を作りたいとずっと思っていました。そんな思いを温めていたところ、2012年に米ウォルトディズニーがルーカスフィルムを買収したというニュース。学研はディズニーとの長い付き合いがありましたから、ついに夢が実現できるのではないかと考えました。」として際物ではない点を強調しています。

ここでスターウォーズのことを良くご存じない方のために説明しておきますと、第一作から第六作までは製作・監督はジョージ・ルーカスでしたが、そこまででルーカスは体力の限界を感じ、自ら経営するルー

カスフィルムをディズニーに売ってしまったのです。

従って昨年公開された第7作以降は、違う監督の作品と言うことになります。

またビデオレンタルでスターウォーズをご覧になるときは、エピソード4,5,6,1,2,3の順でご覧ください。エピソード4～6は1970年代から80年代にかけて制作され、そこまで話は一応完結しております（いわゆる旧三部作）。エピソード1～3（新三部作）は1999年から2000年代初頭にかけて第一作エピソード4から20年の節目として制作されたもので、4～6に出てくる主人公たちの親の世代の物語です。

エピソード7以降はディズニー製作です。

2016年9月に発行されたスターウォーズ英和辞典第三弾「スターウォーズ英和辞典 ジェダイマスター編」は、スターウォーズの第六作目までに出現する全英単語約

[illegible]

會員寄稿文

3000を網羅し、映画の名場面の写真2000点を収録した文字通りスターウォーズ英和辞典の集大成となりました。次男もこの作品には相当の熱を持って取り組んだようです。

マスター編は朝日新聞が2016年10月17日夕刊一面で「辞書 紙の逆襲 読ませる英語 部数を伸ばす」との見出しの元、かなり大きく採り取り上げています。

前に引用した報道とダブルところが多くありますので、省略しますが、息子の談話として「紙の辞書は低迷しているが、モノとして存在感のある商品を作ればまだまだアピールできると考えた」を引用しております。

みなさん、もし書店などで「スターウォーズ英和辞典」を見かけたらぜひお手に取ってみてください。

今回は身内の話で恐縮しております。

終わり

『「一帯一路」から見たアジア・ユーラシアの未来戦略』
—TPP, AEC, RCEP, FTAAP, SCO, EEU, AIIB から考察する—

中 川 十 郎

1. はじめに：

2017年から2020年に向け世界は激動の時代に突入する。国際市場のパラダイムシフトが顕在化する。それは二つが牽引する。一つは先端技術、情報技術の革新である。二つ目はグローバル市場軸の欧米からアジアへのシフトである。技術においては第四次産業革命の出現だ。それはドイツのIOT, Internet, AI, Big Dataを活用した「Industrie4.0」をはじめとする中国の「中国製造2025」、米国の「Industrial Internet」の動きである。

グローバル市場の欧米からアジアへの発

展軸のシフトはAEC(ASEAN経済共同体)の躍進と中国が主導するユーラシアでの物流、貿易、投資を中心とする環境、エネルギー、文化、教育を含む壮大な「一帯一路」構想と、それを金融面で支援する「AIIB(アジアインフラ投資銀行)」である。この技術の革新と世界経済のアジアへのシフトが21世紀の世界に激動を齎す。アジア経済発展の主役は中国とインド、そしてASEAN 10カ国である。それを「一帯一路」のアジア、中央アジア、西アジア、中近東、アフリカ、ヨーロッパの沿線諸国66カ国が牽引する。21世紀のグローバルマーケットの主

戦場は世界最大の版図を有するユーラシアだ。この意味で「一帯一路」と「AIIB」は戦後の欧州経済復興を目指した米国のマーシャルプラン、ブレトンウッズ体制下の世界銀行、IMF、GATT(現WTO)の世界経済機構にも比肩するアジア、ユーラシアでのアジアの時代を見据えた21世紀の壮大な構想である。わが日本としてもこの構想に参加、協力し、アジア、ユーラシアでの経済開発、平和構築に尽力することを21世紀の日本の戦略とすべきであろう。

2. TPPの現状

米国が主導権を取り推進していたTPP(環太平洋連携)はトランプ大統領が2017年1月脱退を宣言した。このため日本が主導権を取り、米国以外の11カ国を中心にTPP11として交渉を開始。7月12～13日、箱根で開催の首席交渉官会議で11月ベトナムで開催のAPEC(アジア太平洋経済協力会議)首脳会議までに結論を出す方向で努力している。だが12カ国のGDPの60%を占めていた米国が脱退したことで40%のシェアの11カ国での貿易自由化はその効果に疑問がある。日本、豪州、ニュージーランドに比べ米国への繊維品の輸出を期待していたベトナム、家電製品の輸出を志向していたマレーシアなどは米国の離脱で目標が狂い日本などの努力の割には参加国の合意を得るのは容易でないと思われる。

そもそもアジア経済共同体の構築にはまずアジア域内の自由化交渉が中心となるべきを南米のチリ、ペルー中米メキシコ、北米のカナダが広大な太平洋を挟んで大洋州の豪州、ニュージーランド、アジアの日本、ブルネイ、ベトナム、マレーシアなど遠隔国同士で自由貿易協定を結ぶのは物流競争力の観点からもAEC(アセアン経済共同体)や中国主導のアジア、ユーラシア大陸をカバーする「一帯一路」構想にくらべて不利であることは自明だ。

3. AEC(アセアン経済共同体)

東アジアの10カ国からなるアセアン経済共同体(AEC)はASEAN設立50年目を迎

えて実現した。人口6億人、域内GDP2.5兆ドル。今後アジアにおいてさらに発展していくものと思われる。AECは2030年を目標にさらなる発展をめざしている。21世紀のアジア発展の原動力としてのASEAN域内の後発国ベトナム、ラオス、カンボディア、ミャンマー諸国も経済発展が加速化しつつある。ASEAN諸国は「一帯一路」の21世紀海のシルクロード通路としてさらに発展が予想される。

4. RCEP(東アジア包括的経済連携)とAPECのFTAAP(アジア太平洋自由貿易圏)

東アジア包括的経済連携(RCEP)はASEAN10カ国に加え、豪州、ニュージーランド、日本、韓国、中国、インドの16カ国からなるアジア、太平洋、南西アジアの経済連携を目指す。RCEPは16カ国合計で世界GDPの約30%、貿易の30%を占める。TPP11のGDP13%、貿易額15%に比べて、はるかに大きなシェアだ。TPP11の交渉の現状にかんがみ、日本としてはまずアジア太平洋、南西アジアを中心とするRCEP構築に尽力することこそ肝心だ。その成果をもってアジア、太平洋、北米、南米を中心とするAPEC(アジア太平洋経済協力)21カ国、地域が目指すFTAAP(アジア太平洋自由貿易圏)構築への努力が肝要であろう。

5. SCO(上海協力機構)、EEU(ユーラシア経済連合)、IORA(環インド洋連合)と「一帯一路」

2001年結成の中央アジア、ユーラシアの協力機構SCO(上海協力機構)は中国、ロシア、タジキスタン、キルギスタン、カザフスタン、ウズベキスタンの6カ国で構成されている。

しかし2017年6月8～9日、カザフスタンのアスタナで開催の第17回首脳会議で結成16年目にして初めて南西アジアの有力国、インドとパキスタンを正式メンバーとして承認した。これにより、SCOは人口30億人、世界人口の約40%を占める巨大経済圏がアジア、ユーラシアに出現することになり、

ますますの発展が期待される。

インドはポストチャイナのICT新興国としてさらに活躍するものと思われる。中国の経済発展のペースは6%台に下がり、New Normalになりつつある。一方、インドは経済成長率が2014年以来17年にかけて7%から8%台で推移し好調である。

さらにインドは印度洋に面する21カ国を結集する「環インド洋連合」(IORA) 首脳会議をこのほどジャカルタで開催。ASEAN有力国のインドネシアに加え、BRICSメンバーのインド、南アなども参加した。西南アジアでパキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパールなどとも関係が深いインドがSCOに参加したことはSCOに好影響を与えるだろう。

すでにインドネシア初の高速鉄道はジャカルタとバンドン間140キロ総工費50億ドル(5700億円)を中国が全額資金供与し建設することが本決まりとなった。

中国新疆ウイグル自治区とインド洋に面するパキスタンのグワダル港を道路や鉄道で連結するプロジェクトも動き出している。

中国はミャンマー、バングラデシュ、スリランカ、パキスタンなどにも融資し、港湾建設を開始。21世紀の海上シルクロード構築を着々と進めている。

一方、カザフスタン、ロシアが主導しているユーラシア経済連合(EEU)はベラルーシ、アルメニア、キルギス5か国が加入。ユーラシアでの経済共同体構築を努力中である。

その中にはホルゴス国際国境協力センターや、中国とオランダを結ぶ道路回廊として2010年に時速150キロの高速道路建設が開始されている。11年には重慶と欧州の直通貨物列車が開通。14年にはイランをつなぐ鉄道も開通。ペルシア湾経由で中東やアフリカへの物流網建設も動きだし、中央アジアはユーラシアの陸の物流のハブとなりつつある。

「一帯一路」は中国、ロシアが主導のSCO、

ロシアが牽引しているEEU、さらにとインドが主導のIORAがその下部機構となり、アジア、南西アジア、アフリカ、中央アジア、ユーラシアとの連携がさらに強化されると思われる。

このように「一帯一路」の構想ルートは陸路が中国から；

- ①中央アジア、ロシアを経由して欧州へ
- ②中央アジア、ペルシア湾をへて欧州へ
- ③東南アジア、南アジアからインド洋の三つ。

海上は；

- ④南シナ海、インド洋から地中海
- ⑤南シナ海から南太平洋の二つがある。

鉄道運輸では特に、中国からドイツへの鉄道輸送が盛んである。16年には中国内28都市と沿線11カ国の20都市間に51本の国際定期貨物路線が開業。一日9便、年間1702便に急拡大。このうちドイツ向けが1034便と70%弱がドイツ向けだ。(日経「経済教室」7月21日 唱新・福井県立大教授)

中央アジアを経由する「チャイナ・ランドブリッジ」やシベリア鉄道経由の欧州路線の輸送距離は実に1万2000キロと地球の直径に匹敵する。それでも輸送期間は海上輸送の2分の1から3分の1に短縮され、競争力を増す。これは将来日本のユーラシア鉄道経由の貿易にも競争優位を齎す。この意味でも日本の「一帯一路」、「AIIB」への参加が切望される。

6. 一帯一路とAIIB(アジアインフラ投資銀行)

「一帯一路」はアジアからユーラシア、中近東、アフリカを経てヨーロッパへ向かう陸のシルクロードと、南シナ海からインド洋、地中海を経てヨーロッパへ、それから南シナ海から南太平洋へ向かう21世紀海のシルクロードの物流網構築構想だ。

近い将来、19世紀のスエズ運河、20世紀のパナマ運河に匹敵する物流革命を齎すとみられる北極海ルートの実現が近づいてい

る。ロシア北極海のヤマル半島でのLNGプロジェクトが動き出している。エンジニアリング会社は日本の日揮、フランスのエンジニアリング会社、海運は中国海運会社と日本の三井大阪商船が担当。砕氷付自走のLNG船建造は韓国の大宇造船所が行っている。日中韓仏露連携の大型LNGプロジェクトだ。2018年にはLNG船3隻での北極海航路の通年の運航が始まる。画期的な第3物流革命の幕開けだ。

2017年6月22日にはアジアと欧州を結ぶ最短ルートでオランダの耐氷船「ビッグロール ビューフォート」(2万3143トン)がロシア・ヤマル半島で建造中の液化天然ガス(LNG)施設向けの鉄骨や配管などを積み込み、中国・煙台港を出港。韓国・釜山港、北海道苫小牧港経由 ヤマル半島のサベッタ港へ向かった。ロシア海域でロシア砕氷船と合流する。(どうしんウェブ 7月14日)

アジア開発銀行(ADB)試算によれば2030年までのアジアでのインフラ資金需要は年間1.7兆ドル(約190兆円)という。しかしADBでの年間融資能力はわずか1%の175億ドル(2016年度融資額)だ。この膨大なギャップを埋めるのが参加国80か国、資本金1000億ドルで北京に本店を有するAIIB(アジアインフラ投資銀行)だ。特に沿線66カ国が参加する「一帯一路」諸国向け物流、運送、エネルギー、環境などのインフラ融資はこのAIIBに加え、中国輸出入銀行や国家開発銀行などが出資するシルクロード基金(Silk Road Fund=資本金400億ドル)、上海に本店があるBRICS銀行(1000億ドル、当面は500億ドル)が動き出す。それに上海協力機構(SCO)開発銀行(資本金100億ドルの予定)などが融資する。さらに下記の5基金が融資に協力する体制だ。

- ①中国～ASEAN投資協力基金
- ②中国～ASEAN海上協力基金
- ③中国～ユーラシ経済協力基金
- ④アジア地域協力特別基金
- ⑤中国～中欧基金

AIIBのこれまでの融資は16件、約25億ドル。このうち12件、19億ドルが世界銀行、アジア開発銀行(ADB)、欧州復興開発銀行(EBRD)などとの協調融資で、慎重な運営を行っている。このことが評価され、6月29日には世界的な格づけ会社の米国ムーデーズ、7月13日には英国のフィッチより最高の格付けトリプルAを取得した。

日本はAIIBはGovernance(企業統治)人権、環境面からも問題ありと批判している。しかし世界の主要80か国が参加しているAIIBに日本も早急に加盟し、一帯一路構想に参加しなければ、ユーラシアの開発から取り残され、悔いを千載に残すことになるだろう。

7. ユーラシアを制するものは世界を制する

地政学者で有名な英国のマッキンダーは『ユーラシアの心臓部、中核を制する者が世界を制する』と主張。米国のスパイクマンは『ユーラシア大陸の周辺沿岸部を制する者はユーラシアを制し、世界を制する』と喝破した。『ユーラシアの地政学』石郷岡建 pp144～149

カーター大統領元補佐官のブレジンスキーは『地球上で最も重要な舞台のユーラシア大陸への積極的関与が米国の覇権維持のためには必須だ』と21世紀に最大の発展をするユーラシアの重要性を強調している。グローバルビジネス、グローバルマーケティングの観点からも21世紀はユーラシアを制する者が世界を制する。21世紀はユーラシア大陸が世界の貿易・投資・物流の主戦場になることは経済史的にも地政学上、地経学上も間違いない。

水野和夫法政大学教授は「海を制した18～19世紀のオランダ、英国、20世紀の米国に代わり、21世紀は陸を制するEU、中国、インド、ロシアが発展する」と予測しておられる。

『閉じ行く帝国と逆説の21世紀経済』(集英社新書) PP121～129

日本はアジアからヨーロッパに続く世界最大の版図を有するユーラシアの重要性を

認識し、「一帯一路」、「AIIB」への参加を21世紀の世界戦略としてこの機会に真剣に考えるべきだ。2017年5月14～16日、29カ国の首脳、70の国際機関代表、130か国の代表、合計1500人が参加した初の「一帯一路」首脳会議で習近平国家主席は最終日に次の点を強調。

1. 「一帯一路」を平和、繁栄、開放、創新、文明の道に
2. 400億ドルのシルクロード基金を2千億元（約1兆6400億円）増資する
3. 中国国家開発銀行、輸出入銀行がインフラ整備などに3800億元の特別貸出しを行う
4. 会議期間中30以上の国と経済貿易の取り決めに調印。関係国と自由貿易協定を協議
5. 2018年から中国輸入博覧会を開催
6. 今後3年間に「一帯一路」建設に参加する途上国と国際機関に600億元を援助
7. 「一帯一路」沿線の途上国に20億元の緊急食糧援助を行う
8. 国際機関による沿線国家への協力事業に10億ドル（1130億円）を提供する

次回「一帯一路」首脳会議は2019年にインドでの開催が決定した。

8. 結論 アジア・ユーラシア物流革命時代の到来

アンガス・マデイソン教授によれば、1720年代は印度と中国の2カ国で世界のGDPの60%のシェアを有していた。まさしくPAX Chindia（筆者の造語）の時代であった。

18世紀後半に英国での蒸気機関発明による産業革命で人類は「農耕時代」から「工業時代」に突入。経済の発展軸が英国へ移動した。PAX Britanicaの到来である。その結果、「七つの海を制し、日没することなき大英帝国」が出現した。

その英国も第二次世界大戦で疲弊。戦後、世界経済発展の軸は米国へ移動。

PAX Americana 時代が到来。米国が世界に君臨した。しかし米国も2008年のリーマンショックを機に国力が低下。21世紀に入り、世界経済の発展軸がアジアに回帰しつつある。再び、PAX Chindia、PAX Asianaの時代が到来。アジアが急速に発展興隆しつつある。21世紀の国際市場競争は価格、品質は均等化し最期の競争優位の要因は物流費の削減だ。中国が主導する「一帯一路」戦略はアジアからヨーロッパへ陸と海から物流網を構築し、競争優位を目指す国際貿易、投資戦略である。国際競争力は運賃、物流費が決め手だ。

ICT、AI、ロボティクス、Industrie 4.0などの第4次産業革命時代を迎え、品質、価格はほとんど均質、均等化しつつある。グローバルマーケティング時代の最期の競争優位の要因は物流費の削減だ。物流・輸送戦略が21世紀の国際競争力を左右する。この意味で中国主導の「一帯一路」戦略は「ユーラシア物流戦略」だと言っても過言ではない。

まさしく物流でユーラシアを制する者が世界を制する。「一帯一路」戦略は19世紀のスエズ運河、20世紀のパナマ運河に続き、アジアからヨーロッパにまたがる世界最大の版図のユーラシア大陸を陸と海から結節する21世紀の壮大なグローバル物流戦略だ。

さらに第4の物流革命としてこのユーラシア大陸の北辺部、北極海航路の海運革命が2018年に実現する。「一帯一路」は世界の経済、物流に一大革命を齎すだろう。

米国の有名なシンクタンク国際戦略研究所(CSIS)も中国主導の「一帯一路」(Belt and Road Initiative)の政治、戦略的な影響に関して関心を有し、「中国のユーラシア世紀は到来するか」と題する研究会を8月2日、関係者を集めてワシントンで開催する。

かかる状況下、わが日本がこの「一帯一路」構想と「AIIB」への参加に出遅れることは歴史に逆行することとなり悔いを千載に残すことになるだろう。一日も早い日本の参加を真剣に検討すべきだ。

会員寄稿文

わが大伯父との邂逅 ……幕末・明治期の箕作家三代記……

箕 作 武 彦

1. フランスから届いた大伯父の「講演録」

私は、本年（2017年）3月までアリストライフサイエンス（株）と謂う会社に勤めておりました。この会社は、ニチメンとトーメンの海外事業を含む農薬事業部門を統合して2001年に設立され、その後数回の変遷を経て現在はNY株式市場上場会社のPlatform Specialty Products (PSP) の農薬事業部門の日本法人として国内の農薬販売、日本の農薬の海外開発とアジア地域の農薬事業を統括する組織です。昨年（2016年）亡くなられたニチメンの島崎元専務を中心とする諸先輩と旧ニチメンの農薬部隊が築いたGlobalな事業を形を変えて引き継ぎ発展させている会社という見方も可能だと思います。

この会社に勤務中の2009年の或る日、アリストEurope社の元社長Francois Richard氏から一通のメールを受け取りました。それによると自分の曾祖父（日本を含む美術品の収集家でGillot Collectionの創始者Charles Gillot氏）は、日仏協会の会員であった。その関係でKakichi Mitsukuriという人物の“La Vie Social au Japon”という本を持っている。同氏は動物学者で東京帝国大学理学部の教授だった人だが、Mitsukuriという名前からしても貴兄と関係があるなら、そして貴兄が希望するならその本を贈呈したいという趣旨でした。

邂逅とは、まさにこういう事なのでしょう。Richard氏は、ニチメンが1994年に買収したフランスを本部として欧州、中近東、アフリカ地域に農薬事業を展開していた

Calliopeと謂う会社の社長でアриста設立後2005年までアристаEuropeの社長をしていた人物です。Kakichi Mitsukuriこと箕作佳吉（1857-1909）は、私の祖父箕作元八（ゲンパチ1862-1919）の兄にあたる人ではありませんか。



箕作佳吉

箕作元八

件の本は、Richard氏の好意に甘えて送付して貰い、佳吉のお孫さん経由岡山県津山市の「津山洋学資料館」に寄贈させていただくことにしました。因みに同資料館は旧津山藩出身の江戸末期～明治時代の蘭学者をはじめとする洋学者の資料を管理・展示している所で、洋学に関連する講演会などを活発に開催しております。

La Vie Social au Japon（日本の庶民生活）は文庫本の2倍位の大きさの150頁の日本の庶民文化を紹介する絵入りの小冊子で、佳吉が明治31年（1899年）1月にボストンでLowell Instituteの要請で英語で行った講演を宮島幹之助（1872-1944）という慶応大学医学部教授が仏語に翻訳し序文も起草したとされています。内容は、日本が短期間に急速に西欧化を進めているが、日本にはそれを受容する昔からの長い文化的な伝

続があった経緯と、正月、盆などの年中行事などを通じた日本の庶民の生活を紹介したものです。

2. 箕作佳吉とその兄弟

佳吉という人は一体如何なる人物で何故このような講演に招かれたかを以下で簡単に紹介したいと思います。その為には、背景事情として自分の先祖の話をする必要があります。事実、旅行談と一族の話は人を退屈させると言われています。暫しご辛抱ください。

佳吉は蘭学者箕作阮甫（ゲンポ1799-1863）の孫、そして同箕作秋坪（シュウヘイ1825-1886）の第3子として安政4年に生まれました。父秋坪は、当時幕臣および津山藩藩士を辞し「三又学舎」という英語塾を開いており佳吉は此処で学んだ後慶応義塾を経て大学南校に転校し、ハウスという雇い外国人兼米国人記者の自宅に寄宿します。この縁でハウスの帰国時に誘われて米国留学をする結果となりました。佳吉15歳の時でした。コネチカット州Hartfordの公立高校を卒業後工科大学で土木工学を試みますが、視力が弱い為工学を諦め1877年Yale大学に転校、海洋動物学を専攻します。同校卒業後ジョンホプキンス大学で学び1879年23歳で帰国、翌年東京大学理学部動物学科教授に就任します。

その後三崎の臨海実験所の設立に携わり、海洋生物学の研究を続けると共に政府の要請で海洋に関連する国際会議に参加する一方、学校教育に関する委員等を務めております。明治31年のボストンにおける講演も、ワシントンで開催された米、英、露、日4か国オットセイ保護問題評議会に専門委員として出席した際Lowell Instituteの講演依頼に応じたものです。当時は急速に西欧化を進める日本に関する興味は米国でも高まっていたものと思われます。

海洋生物学の研究では、海洋生物・昆虫など約40種の学名にMitsukuriが付いてい

るそうですが、これは臨海実験所の所員等が佳吉に献上したもののようです。もっとも有名な例はミツクリザメ（学名：Mitsukurina Owstoni Jordan 1898）です。又佳吉は、御木本幸吉に養殖真珠の技術的な助言をした経緯があり、御木本真珠店に以前佳吉の写真の入ったパンフレットが置いてありました。尚、La Vieの訳者宮島幹之助氏は、明治31年に東京大学理学部動物学科を卒業しておられ、指導教授は佳吉であったと思われます。同氏はその後北里柴三郎一門の学者として活躍されました。

秋坪には、奎吾（ケイゴ1852-1872）、大麓（タイロク1855-1917）、佳吉、元八の4人の息子がおりました。

長男奎吾は、幼い頃から英語を学び13歳の時開成所（蜜書調所の後身）の「英学稽古世話心得」を仰せつかり15歳で幕府の英国留学生に12歳の弟大麓とともに選ばれ渡英しました。しかし徳川幕府の崩壊により帰国後、父秋坪の運営する「三又学舎」の教授を務めておりましたが、明治4年隅田川で遊泳中に溺死してしまいました。

次男の大麓は、父秋坪の生家である菊池家を継ぎましたので、菊池大麓として知られております。大麓は、兄奎吾と共に明治元年に英国より帰国しますが、明治3～10年明治政府の命により英国に再度留学、数学を専攻してロンドン大学とケンブリッジ大学を卒業し明治10年に帰国、東京帝国大学教授、総長、文部大臣などを歴任しました。

三男の佳吉については前述のとおりです。

四男の元八は、父親の営む三又学舎で、漢学、洋学を学んだ後明治13年東京大学理学部に入学し動物学を専攻しました。指導教授は兄の佳吉になります。明治19年（1886年）から25年までドイツに留学し動物学の研究を継続予定のところ、兄佳吉以上に視力が弱く顕微鏡での観察に無理があった為、一念発起して歴史学に専攻を変

更します。帰国後第一高等学校の教授などを経て明治32～34年再度独、仏に留学、西洋歴史の研究を継続し帰国後東京大学の教授に就任し、日本に西洋歴史を広く紹介しました。

昭和47年3月8日付のニューヨークタイムズ紙のザルツバーガー記者の昭和天皇との単独会見の記事に天皇が「無数の人々から知的影響を受けたが、最大の影響を受けたのは日本の英雄でもなく、天皇でも又著名な科学者でもなくミツクリ・ゲンパチと謂う教授だと語られた時には側近の人々でさえ驚いていた様子であった。19世紀末から20世紀初頭にかけて西洋史を日本へ翻訳紹介したミツクリは、特に現在有名な人物ではない。」という記事が載っていたそうです。父秋坪が営んでいた三叉学舎の塾生が各界で活躍していましたので元八の子供時代を知る彼等が少・青年時代の昭和天皇への東宮御学問所での元八の西洋史の講義を設定したものかも知れません。元八は、「フランス大革命史」、「ナポレオン時代史」、「西洋歴史講話」、「世界大戦史」等を著わしております。

3. 佳吉兄弟の父秋坪と祖父阮甫

次の疑問として一体何故この兄弟たちは明治初期に欧米に留学することに成ったのか。この辺の背景を以下に考察してみます。

4人兄弟の祖父阮甫は、寛政11年(1799年)津山藩の藩医箕作貞固(テイコ1758-1802)の三男として生まれますが、4歳で父を失いその後12歳までに兄二人と姉を失い家督を継いだものの減額された扶



箕作阮甫

持で母親と二人の家族となり物質的に非常に厳しい生活を強いられます。漢学、医学(漢方)を学んだのち18歳から21歳まで京都

で医学を修業後帰藩、藩医の一人に加えられました。3年後江戸詰を命じられ、蘭語と西洋医学の必要性を痛感して蘭学者で津山藩江戸詰藩医の宇田川玄真(ゲンシン1769-1834)に入門、医学と蘭学の研究に専念し西洋医学書等の翻訳を行います。その間「蛮社の獄」(1839年)で幕府天文台の蘭学者小関三英(1787-1839)が自身に類が及ぶことを恐れて自殺した為、その後釜として天文方和解御用(ワゲゴヨウ)＝翻訳員に登用されました。

当時の国際情勢は、日本がいつまでも鎖国政策をとり続けることを困難にしつつありました。嘉永6年(1853年)には、ペリー(1794-1858)提督が「黒船」で渡来、フィルモア大統領の親書を提出しますが、米側に英文を蘭文に直してもらいこれを和解御用の杉田成郷(1817-1859玄白の孫)と阮甫が翻訳しました。更に同年ロシアの使節プチャーチン(1804-1883)が長崎に渡来し幕府は勘定奉行川路聖謨(カワジトシアキラ1801-1868)を交渉の為長崎に向かわせますが、その際川路の求めで阮甫も翻訳係兼相談役として同行します。更に安政2年(1855年)には、同使節が下田に来航再び川路が阮甫を伴って交渉に当たり、同年12月日露和親条約が締結されました。翌年、幕府は、外交交渉などの外国語文書の翻訳の急増に対処する為、天文台和解局を廃して「蛮書調所」を設立しその教授に阮甫を指名しました。

阮甫は、藩医の立場上医師としての仕事も勤めその面でも高く評価されていた様ですが、蘭語文献の翻訳と西洋の学問に関する著述により強く使命を感じており、訳本・著作は99部166冊に上り、その対象は医学・薬学、地質・天文・物理学、地理学、歴史学、兵学・造船、法学など驚くほど広い範囲に亘っております。

尚、史実に忠実に作品を書く事で知られる作家の吉村昭氏(1927-2006)は、阮甫を好意的に見ていたと思われ、その作品「長

英逃亡」、「ファン・シーボルトの娘」などで軽い脇役として阮甫を登場させておりますが、長崎及び下田でのプチャーチンとの日口交渉に関しては、川路聖謨を主役、箕作阮甫を準主役の待遇で「宴の後」という小説に登場させております。

阮甫には息子が無く4人の娘がおりそのうち一人は夭逝した為、菊池秋坪を次女「つね」の婿として、又佐々木省吾を3女「しん」の婿として養子縁組を行いました。（長女「さき」は、呉家に嫁す。）

佳吉兄弟の父秋坪は、現在の岡山県上房郡北房町にあった津山藩預所学校という社会教化を目的とする学校の学監であった菊池文理の次男として生まれました。兄は夭逝し13歳で父を失い17歳の



箕作秋坪

時に津山藩士稲垣茂松氏に引き取られ漢学を学び19歳の時同氏に連れられて江戸詰津山藩医箕作阮甫に入門し、その後一時大阪の緒方洪庵（1810-1863）の「適塾」でオランダ語を学んだ後、江戸に戻り「つね」と結婚することに成ります。嘉永6年（1853年）6月ペリーが浦賀に来航、幕府の情報収集への協力の為、津山藩は秋坪に現地調査を命じ、秋坪は調査報告書を提出しております。同年10月には、幕府より天文台の和解方（ワゲカタ）に任命されます。

翌年1月ペリーが再度渡来し同年3月幕府は米国と和親条約を締結し、日本は開国を迎えることになります。この間、幕府は幕末の混乱のため蘭、露、英、仏と相次いで締結した「修好通商条約」の履行が困難となり、文久元年（1861）末、開港・開市の延期交渉の為使節団を欧州に派遣します。秋坪は雇翻訳方兼医師としてこの訪欧団に加わります。使節はその目的を一応果たして翌年末帰国しますが、この際未解決で

あったロシアとの北方領土問題交渉の為、幕府は慶応2年（1866年）末ロシアに使節団を派遣、再び秋坪は翻訳方としてこの使節団の一員となりました。結果的にこの交渉でも北方領土問題は結論を得られず翌年5月帰国します。この年には大政奉還が行われ、大きな歴史の転換期を迎えます。秋坪は明治元年に隠居し、三叉学舎を開設して後進に対する洋学の指導にあたりました。

4. 法学者箕作麟祥

此处で佳吉兄弟の従兄であり又ある事情で長兄にもあたる西洋の法律を日本に紹介する役割を担った箕作麟祥（アキヨシ1846-1897幼名貞一郎）について触れておきたいと思います。

阮甫は、門弟の佐々木省吾（ショウゴ1821-1846）を三女「しん」の婿として箕作に迎え入れました。省吾は、岩手県水沢藩士佐々木佐衛治の次男として文政4年に生まれますが、14歳で両親を失い、師事していた蘭方藩医坂野長安に引き取られました。地理学に興味を持ち、江戸に出て長安から話を聞いていた阮甫に入門します。入門後省吾は、蘭語の資料を翻訳・参考にして世界地誌の本を出版します。弘化元年（1844）世界地図「新製輿地（よち）全図」、同2年「坤輿（こんよ）図識」5巻3冊、同3年「坤輿図識補」4巻4冊が出版されました。これ等の本は江戸末期の外国船が近海に出没する時代に外界に強い興味と警戒心を持っていた人々の間に流布し、箕作家の家計も潤ったと言う事です。然し、省吾は労症（肺結核）により弘化3年末26歳で亡くなってしまいます。

省吾の死の4カ月前に生まれた長男麟祥は、阮甫の初孫になります。麟祥は、5歳の時母「しん」が加賀藩の江戸屋敷に奉公に出たため、阮甫とその妻登井（とい）に育てられます。漢学を12歳頃より学んでおりますが、蘭学は阮甫の弟子たちが読むの

を傍らでみて相当な力をつけたため、阮甫も蘭学を教え始めたと言われます。文久元年（1862）16歳の時幕府より「蛮書調所英学教授手伝並出役」を命じられます。阮甫は麟祥を中浜万次郎（1827-1898）の英語塾に入れておりましたので、此处で英語の力を付けたものと思われます。同3年（1863）「開成所教授見習」、翌元治元年には「外国奉行支配翻訳御用頭取」を命じられます。この間日中は、開成所に勤め夕刻より家で英学を教えておりました。

慶応2年（1866）幕府は翌年パリで開催される万国博覧会に参加することを決定、将軍慶喜（1837-1913）の名代として弟の徳川昭武（アキタケ 1853-1910）を団長にして慶応3年（1867）計31名の使節団を派遣します。麟祥は、「御儒者次席同翻訳御用」（通訳をも兼相心得候）という肩書でこの一行に参加することとなりました。これは本人の強い希望もあったようで、麟祥は急遽仏語の独習を始めます。既に学習していた漢語、英語、蘭語の知識が仏語の学習に極めて役立ったと思われ、パリ到着の数か月後に同行の商人清水卯三郎（1829-1910）の依頼で仏文の約定書を作成したところ仏人よりその出来栄を称賛されたそうです。一行がフランスに滞在していた期間は、慶応3年2月末から同年12月中旬までの約10か月間です。麟祥は、この10か月間を除いて従弟たちのような長期間の外国滞在の経験はありませんが、この旅行を機会としたフランス語との出会いがその人生を決定づける結果となります。

帰国の年9月に時代は明治となり麟祥は、明治政府から開成所の御用係に任命され、翌明治2年に政府よりナポレオン法典の刑法の翻訳を依頼されこれを完成させます。次いで明治7年にかけて民法、憲法、訴訟法、商法、治罪法の翻訳も依頼され全6法が「仏蘭西法律書」として文部省より刊行されます。この時代には、まだ法律の研究書も少なく適当な法律用語もなかったため、

動産、不動産、治罪法、義務相殺、未必条件などの法律用語を作ったと言われております。On the job training という言葉がありますが、この場合には訓練を受ける人の上司や組織は十分な業務知識を有していることが前提になります。麟祥の場合、法学を専門にしていた訳ではなく参考文献も無く、指導する先生も無く、日本にない制度や概念を短期間に訳したわけですから on the job training でも大変な苦勞をしたに違いありません。当時明治政府は、急速に近代化、西欧化を推進しつつあり欧米諸国との不平等条約の改定が喫緊の課題でありました。条約の改定について欧米諸国は日本が法治国家で無いとしてこれを拒んでいた為、兎に角法律を作ることが何よりも優先されるという背景がありました。特に麟祥が苦勞したのは、民法です。民法の編纂を急ぐ司法卿江藤新平（1834-1874）の誤訳でも良いから速訳をとという指示で悩んだ麟祥は留学を申請しますが、麟祥が不在になると法文の草案作成が遅延するという理由で許可されず、代わりにフランスの法律学者ブスケ（Bousquet, George 1846-1937 在日 1872-1876）が招聘されます。更に13年（1880）民法のうち財産編を政府の招聘により滞日中のフランス人法学者ボアソナード（Boissonade de Fontarabie 1825-1910 在日 1873-1895）に依頼することになり、ボアソナードがフランス語で原案を作成し麟祥がこれを訳す形で草案が進められその過程で両者間に専門的な意見交換があったと想像され、相互信頼の関係が成立したようです。

その後、麟祥は司法次官、行政裁判所長官などの法律関係の要職を歴任しますが52歳の時急逝して仕舞います（明治30年11月）。民法全編が施行されたのは麟祥の死の翌明治31年（1898）7月のことでした。

司法次官であった明治22年（1889）麟祥は、現在の法政大学の前身である和仏法律学校の初代校長に就任し終世その職にありました。前述のとおり渡仏前にも自宅で英

語の塾を開いておりましたが、帰国後も公務が多忙になるまでの期間私邸で「共学舎」と謂う塾を開き多くの門人を育てたということで、麟祥は日本に近代法を紹介する役を担うと共に後進の指導にも熱心な人であった様です。

5. おわりに

以上に江戸末期から明治時代に亘る3代の足跡を見て戴きました。人は歴史が創ると謂われますが此の3代を振り返ってみるとその感を強く感じます。一代目の阮甫が西洋医学・科学に関する強い興味から進んでいた蘭学を通じた研究が、時代の要請で活用されましたが、蛮社の獄の例の様に蘭学およびそれを通じての開国への道筋を必ずしも快く受け入れない背景事情は、常に感じていたものと思われます。2代目の秋坪は、蘭学および英学を活用して西欧諸国への使節団に加わりました。第1回の使節団が帰国した文久2年(1862)頃には攘夷の勢力が強大となり、海外に行ったことや海外の事情を口外することすら注意するようにとの奉行よりの内訓があったそうですから、開国に対する国内世論は鋭く対立していたものと思われます。3代目即ち筆者の祖父にあたる世代の人たちは、若年時代に海外で学び各々の分野で欧米の知識を導入する役割を担ったことになると思います。江戸末期からの開国、明治時代の急速な日本の近代化に欧米の社会・制度・文化などの情報を提供する役割を担った3代だったと思います。

かく申す筆者自身は、残念ながらこれら学者のDNAを受け継いでおりません。只、祖父系統の強度の近視のDNAを引き継がなかったことを不幸中の幸いと思っております。

以上

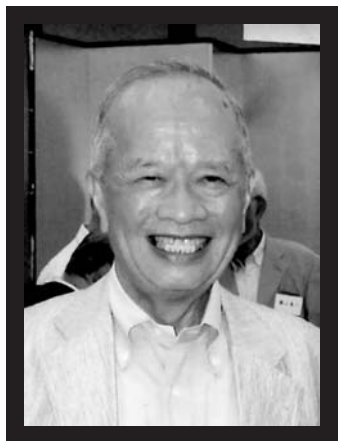
参考文献：

- 「箕作阮甫の研究」蘭学資料研究会編
思文閣出版 昭和53年
- 「箕作秋坪とその周辺」次郎丸憲三著
箕作秋坪伝記刊行会発行 昭和46年
- 「洋学者 箕作阮甫とその一族」
(岡山文庫 170) 木村岩治著
日本文教出版(株) 平成6年
- 「箕作佳吉とその時代」
玉木存著 三一書房 1998年
- 「増補 北里柴三郎とその一門」
長木大三著 慶應義塾大学出版会発行
2003年
- 「生誕170周年記念 日本近代法学の祖
箕作麟祥」
津山洋学資料館平成28年度秋季企画展
資料
津山洋学資料館編
- 「箕作の名前をもらった生物一覧」
瀬能浩作成
津山洋学資料館第72回文化講演会資料
(平成29年4月開催)
- 「箕作元八 欧州叢梅日記」
井出文子・柴田三千雄編 1984年
東京大学出版会
- 「箕作阮甫先生生誕200周年記念 箕作阮
甫自筆資料展」
(平成11年度津山洋学資料館
特別展報告)「一滴」第8号 2000
- 「津田真道と箕作麟祥のラテン語学習」
原田祐司 「一滴」第9号 2001
- 「蛮書和解御用と津山藩の洋学者」
(蛮書和解御用創設200周年記念企画展
報告)
「一滴」第20号 2012
- 「杉田玄白生誕280年記念 解体新書と美
作の洋学者たち」
(平成25年度夏季企画展報告)
「一滴」第22号 2015
- 「(資料紹介) 中澤廣江宛て箕作秋坪書簡
にみる三又学舎」
田中美穂 「一滴」第23号 2016

注：「一滴」は、津山洋学資料館の機関誌

杉本佳久さんの思い出

米 田 信 一



去る5月24日にニチメン電子情報本部を実質つくられたと申し上げても過言ではない杉本佳久さんが82歳を目前にして惜しくもお亡くなりになりました。

杉本さんは取締役になられて米国ニチメンのEVPとしてアメリカに赴任され常務取締役で帰国され電子情報本部長としてニチメンの経営全般にも関わられ、その後専務取締役としてホンコンにも駐在され全アジア統括役員として活躍された立派な経営者でした。2004年4月にニチメンと日商岩井が合併した時、杉本さんが電子情報本部長時代につくられた電子情報本部傘下の4子会社が総額430億円で本体ニチメン本体を救済する目的で旧日商岩井の情報関連子会社のITXに身売りをされた時はこれらの子会社にニチメン本体に一度も入らず大学卒業後即この4子会社に出向して行った多くの若手社員や子会社プロパーの人たちのことを親身に心配しておられたことも、今となっては懐かしい思い出です。

当時電子情報本部長として示された3つの分野の大方針は情報IT分野、通信では携帯電話（ニチメンテレコム）、自動車ではFord向けカセットメカという今日でも十分通用する3大重点分野に電子情報本部の経営資源を集中するという先見の明でした。この大方針のもとに前述の4子会社もつくられました。情報分野では現在でも話題になっている人工知能を扱う会社、また通信分野では携帯

電話を販売するニチメンテレコムをつくれこの会社は今もITXと言う双日の子会社として存続し経営上で重要な位置を占めています。また自動車部門にあっては当時タナシン、シンワという世界1・2位のMakerとFord/ニチメンとの合弁によりブラジル、メキシコ、ポルトガル、カナダに製造子会社を設立し、1990年代の米国ニチメンの営業利益の大半を稼ぎだしました。さらに1991年にはシカゴ支店の傘下にデトロイト、サンノセ、ボストン、アラバマ（ハンツビル）に4出張所の開設をご支援いただきました。このように杉本さんは今振り返ってみても本当に先見の明のあるスケールの大きな立派な先輩で且つ優れた経営者でもありました。

私は昭和37年にニチメンに入社し当時の大阪機械部電気機器課に配属されましたがその時杉本さんはすでに大阪機械部電機課の若手社員として船井電機とニチメンが当時米国占領下の沖縄で設立したトランジスタラジオを生産する船井軽機向け電子部品の船積みとそこで完成したトランジスタラジオを米国ニチメンに輸出する貿易業務を主として担当しておられ貿易実務のイロハを教えてもらいました。杉本さんは入社後3－4年して当時電機課の主たる取引先であったエルジン社、ハリクラフターなどとのOEM商いを主力としていた米国ニチメン シカゴ支店に電機担当の駐在員として渡米されました。1963年のことです。その4年後、1967年4月に私自身も杉本さんの後任としてシカゴ駐在を命じられたとき、初めての海外駐在で緊張してシカゴのオヘア空港に降り立った時、一足先に同じく大阪電機課からシカゴに駐在しておられた田中長典さん（前述の元ニチメンテレコ

ム社長）と二人で空港に迎えに来てくださり、そのままホテルにもチェックインせずに、ゴルフのプロショップに連れていかれゴルフクラブ一式を買わされた事が今も懐かしく思い出されます。其れから私は3度もシカゴ駐在になり合計15年もシカゴに駐在しました。最後の駐在でシカゴ支店長を務めた1990－1995年の間に杉本さんはNY駐在の米国ニチメンのEVPとして、何度もシカゴに来られゴルフや食事会に御一緒し親しくお付き合いをして頂いたこと、また帰国後は専務取締役全アジア統括役員として駐在しておられたホンコンにお邪魔し、ロイヤル香港カントリークラブにも連れて行っていただいた事等々、懐かしい思い出はつきません。ニチメンの専務取締役を御退任後はニチメン保険センター社長として3年ほどニチメンに籍を置いておられました。保険業務のプロとしての資格まで取られた勉強家でもありました。

2004年ニチメンが日商岩井を吸収合併した時、もし杉本さんがまだ当時ニチメンの

経営陣に参画しておられたとしたらこんな惨めな電子情報本部の解体と4子会社の身売りは無かつただろうとよく仲間内での飲み会で悲憤慷慨した事も多々ありました。繰り返しになりますが、当時杉本さんが電子情報本長として設立された4子会社の中には今や立派な一部上場企業（テクマトリクスなど）となっており、そこに入社したニチメン出身の後輩が社長として経営者として活躍されている人たちも居られることを思うと杉本さんは亡くなられても、その遺志や遺訓は十分生かされていると言っても過言ではないと思います。杉本さんから薫陶を受けた後輩の一人として、心からの尊敬と哀悼の意を表するものであります。あれほど楽しみにしておられた今年の5月20日のシカゴ会へのお誘いをしたとき体調悪化で欠席せざるを得ないことを非常に残念がっておられ皆様に宜しくと仰っていたことを昨日のように思い出します。心からご冥福をお祈りします。



後列左より：杉本佳久さん、永山修一さん、町田智音さん、米田真一さん
前列左より：田淵弘通さん、田中義己さん、広田雄太郎さん
(1992年 ニューヨークの米国ニチメンにて)

役員・世話人

会 長	石 原 啓 資	(世話人代表兼任)				長谷川	洋 (世話人兼務)			
副会長	倉 又 則 夫									
監 事	大 山 弘 雄	新 藤 孝								
世話人	赤 城 枝 美	入 江 隆 史					奥 村 睦 夫			
	北 川 幸 雄	木 津 奈 緒 子					倉 持 次 雄			
	園 山 春 一	中 田 龍 彦					西 村 照 男			
	花 澤 和 郎	蛭 田 恒 美					櫛 山 俊 二			

[illegible]

ニチメン東京社友会世話人連絡先

世話人氏名				所属	電話番号	世話人氏名				所属	電話番号
倉	又	則	夫	機械		長	谷	川	洋	機械	
大	山	弘	雄	管理		新	藤		孝	財務	
赤	城	枝	美	財務		園	山	春	一	業務	
入	江	隆	史	合樹		中	田	龍	彦	食料	
奥	村	睦	夫	木材		西	村	照	男	人総	
北	川	幸	雄	機械		花	澤	和	郎	鉄鋼	
木	津	奈	緒	運保		蛭	田	恒	美	燃工不	
倉	持	次	雄	食料		榎	山	俊	二	鉄鋼	

[illegible]

◎ 会員各位へのお願い ◎

先輩・同輩・後輩のご不幸とか、社友会への要望・意見・連絡事項などは、上記リストの誰あてでも結構、ヨロシクお知らせ下さるよう、お願い致します。



【編集後記】

会員各位には、本号発行の頃から1-2か月の間は、仲間・友人・親戚などと集まる機会が沢山続くことでしょう。飲み過ぎなどせぬよう、くれぐれも気を付けてお楽しみ下さるよう。

ところで、当会のホームページは長らく休眠状態にあったが、HP担当部と会報編集部とを統合した「広報チーム」がこの夏に発足して以来、キッパリと目を覚ましました。会員への情報提供や会員同士の情報交換の場として、活字の「会報」と並んで、目的は同じながら夫々の役割を果たしつつ努力して行きたい。

各位には、今後共大いにご利用・ご活用をお願いしたい。

(倉持 次雄)

ニチメン東京社友会

〒100-8691 東京都千代田区内幸町2-1-1
飯野ビルディング17F

会報発行人：倉又 則夫 副会長兼世話人代表

編集担当・広報チーム（全員世話人）

顧問：長谷川 洋 副会長兼任

リーダー：倉持 次雄

メンバー：入江 隆史、奥村 睦夫、北川 幸雄

中田 龍彦、蛭田 恒美

印刷所：有限会社 関内印刷